

第1部

胆振東部地震について

第1章 むかわ町の概況

第2章 むかわ町におけるこれまでの災害と防災対策

第3章 地震の概要

第4章 むかわ町における被害の状況

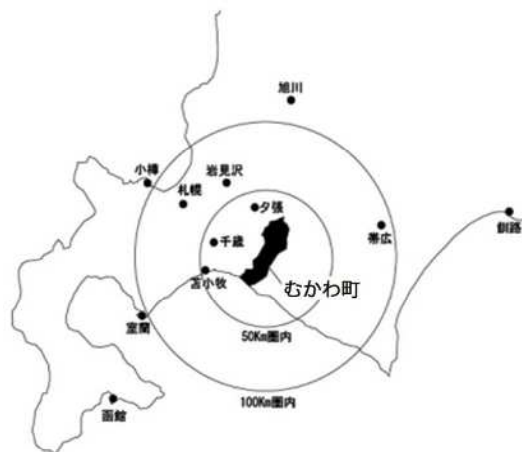
第1章 むかわ町の概況

1 位置と地勢

むかわ町は、道央圏の南方に位置し、北海道の経済・文化の中心都市である札幌市や、空の玄関の千歳市、海の玄関である苫小牧市にも近く、日高・十勝方面への交通の要衝にある。面積は、711.36平方kmであり、細長い地形をしている。東西及び北部の三方を日高山脈系の外縁部に囲まれ、南部は太平洋に面し、全国でも屈指の清流度を誇る一級河川鵒川が南北に縦走しており、海・山・川そして平地と多彩な自然環境に恵まれている。

気候は、北部は内陸性気候に属し気温の年較差がやや高い傾向にあるが、南部は太平洋の影響を受け温かく、積雪寒冷の厳しい北海道にあっては、比較的温暖で過ごしやすい地域のひとつに数えられている。

むかわ町の位置



2 沿革

旧鵒川町は、雄大な太平洋と清流鵒川、緑豊かな多彩な自然と実りある大地に恵まれている。本町は徳川時代に松前藩所管の勇払場所、漁場として重要な位置にあり、東蝦夷地の要所として武州八王子千人同心100人（鵒川へは内50人）の派遣により、開墾された。その後、本格的な開拓が始まり、人々が定着するようになると、明治26年から米づくりが始まった。明治28年4月1日、苫小牧外15カ村戸長役場が当地に設置されたのが鵒川町の開町となる。大正4年には2級鵒川村となり、昭和28年に町制施行し鵒川町となった。

基幹産業は農業であり、水田・畑・酪農牧場・競走馬の生産牧場が広がる美しい景観を保有している。また、太平洋では漁業が行われ、鵒川河畔には日本一の規模を誇るたんぱの群生地が広がっている。秋に遡上するシシャモは町のシンボルであり、特産品となっている。

旧穂別町は、農業と林業を基幹産業とする山間部に位置する。先史時代には海だった穂別町では、クビナガリュウやモモサウルス、アンモナイトなどの化石が発掘され、町立博物館で展示されている。明治10年前後に和人の定住があったとされているが、本格的な入植は明治25年頃から

で、明治45年4月に鵒川村より分村し、似湾外三ヶ村戸長役場が設置された。大正8年2級町村制施行により似湾村となり、昭和4年10月村名を穂別村に改称し、同37年1月町制を施行した。その後、林業、鉱業、石炭のまちとして同36年には人口が10,630人に達したが、同40年に穂別炭鉱、同42年には大和炭鉱と相次ぐ炭鉱の閉山と離農者、林業不振等により人口は減少し、現在、恵まれた自然・交通条件を背景に、「健康な農産物を届ける町」として安全で美味、栄養価の高い本物の農産品の産地として、クリーン農業にポイントを置いた穂別型農業を推進している。

平成18年3月に旧鵒川町と旧穂別町が合併しむかわ町が誕生した。合併後は、鵒川・穂別両地区の地域特性や固有の財産となる資源の特徴を最大限活かし、町の基本理念を「人と自然が輝く清流と健康のまち」と定め、町民と行政が力を合わせて豊かな自然の中で、安心して、いきいきとした生活が営めるよう、持続可能なまちづくりを進めている。

3 人口・世帯

本町の人口は、2015年（平成27年）時点で8,596人、高齢化率は36.5%となっている。継続的に高齢化は進んでおり、2020年（令和2年）以降の高齢者人口の停滞によってさらに急速な人口

減少が予想され、2040年（令和22年）時点で3,495人に減少し、高齢化率は50.4%に達するとされている。

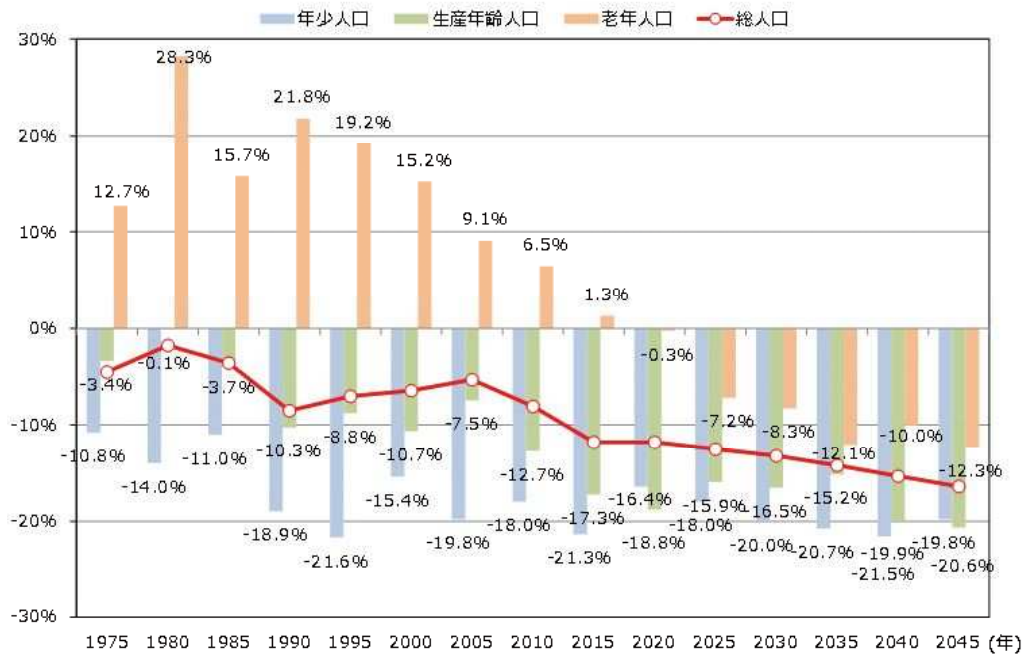


図 むかわ町の人口推移及び対前年変化率
(出典) 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(H30.3推計)

第2章

むかわ町におけるこれまでの災害と防災対策

1 過去の災害

① 鵒川地区

- ・明治31年9月6日：洪水（早朝からの豪雨とともに翌日7日はさらに強風に加え、各河川の氾濫等猛威を振るった。鵒川も水嵩を増し、上流から大木が流れ出し、田は濁流に吞まれ、家屋流出160戸、31人が死亡した。
- ・大正2年8月27日：暴風雨（5月から7月にかけて低温続きで水稻の発育を大きく阻害した。7月下旬から8月にかけて異常な干天が続き、8月27日に暴風雨となり、人畜に大きな被害が発生。1人が死亡した。
- ・昭和43年5月16日：地震（1968年十勝沖地震。鵒川町は震度5を記録し、公共施設や住居等

が破損した。被害額3億3千万円。

- ・昭和56年8月3日：集中豪雨（3日から6日にかけて全道を襲った。鵒川町では298.5mmを記録し、山間部では崖崩れが発生し、1人が死亡した。また、道路寸断や農用地の冠水、農業用排水路の決壊・破損等、橋梁2橋が流出した。総被害額は19億1608万円に上った。
- ・平成4年8月8日～9日：台風10号と、前線による北海道中部を中心とした大雨により、胆振東部、日高西部に記録的豪雨をもたらした。被害総額は33億円に達し、年間予算規模に四敵する大被害であった。

② 穂別地区

- ・明治31年9月6日：洪水（早朝からの豪雨とともに翌日7日はさらに強風に加え、各河川の氾濫等猛威を振るった。上流は富内地区の市街地まで水に浸かり、下流の和泉、豊田、栄、仁和地区では一面水没した。3人が溺死した。
- ・昭和5年6月1日：山火事（辺富内村有林（坊主山））で発生。鎮火まで1週間を要した。
- ・昭和37年8月4日：台風（連続雨量263mm、1人が死亡。家屋被害は流出4戸、床上浸水105戸、床下浸水113戸あり、土木被害は道路決壊20箇所、橋梁被害9箇所、河川被害55箇所に上った。

- ・昭和57年8月3日：台風（台風12号により、連続雨量264.9mmを記録し、1人が負傷した。家屋被害が床上浸水2戸、床下浸水6戸あり、土木被害は13箇所、地滑り9箇所となった。
- ・平成4年8月9日：台風10号、連続雨量243mm、最大時間雨量40mm、（家屋被害）破損2戸、床上浸水16戸、床下浸水93戸、（公共施設被害）20戸（農業被害）流出埋没田670ha、同畑228ha、農業施設破損249箇所、（土木被害）道路決壊251箇所、その他被害33箇所、（被害総額）15億円に上った。

③ むかわ町 ※平成18年3月27日合併以降

- ・平成18年8月18日：集中豪雨（8月18日未明から19日午前2時頃まで停滞前線により北海道中部を中心に大雨となり、胆振東部、日高西部が豪雨となった。鵒川地区の連続降雨量は310mm、穂別地区は279mmを記録。人的被害はなかったものの、床上・床下浸水、町道、農業用排水路決壊・破損、橋梁流出、田畑埋没、冠水被害等で被害総額18億3719万4千円に上った。
- ・平成28年8月21日～23日：台風（台風7号の影

響が終わる前に、台風11号・9号と立て続けに北海道に上陸。台風11号は激しい雨により河川水位上昇、倒木があり、5世帯6名が自主避難した。台風9号は豪雨による大雨、洪水、暴風の各警報のほか、土砂災害警戒情報、鵒川氾濫危険情報による避難勧告により、45世帯64名が避難した。総雨量は鵒川地区219mm、穂別地区231mmを記録した。

2 防災対策

① 当時の防災計画の概要

① 全体の構成

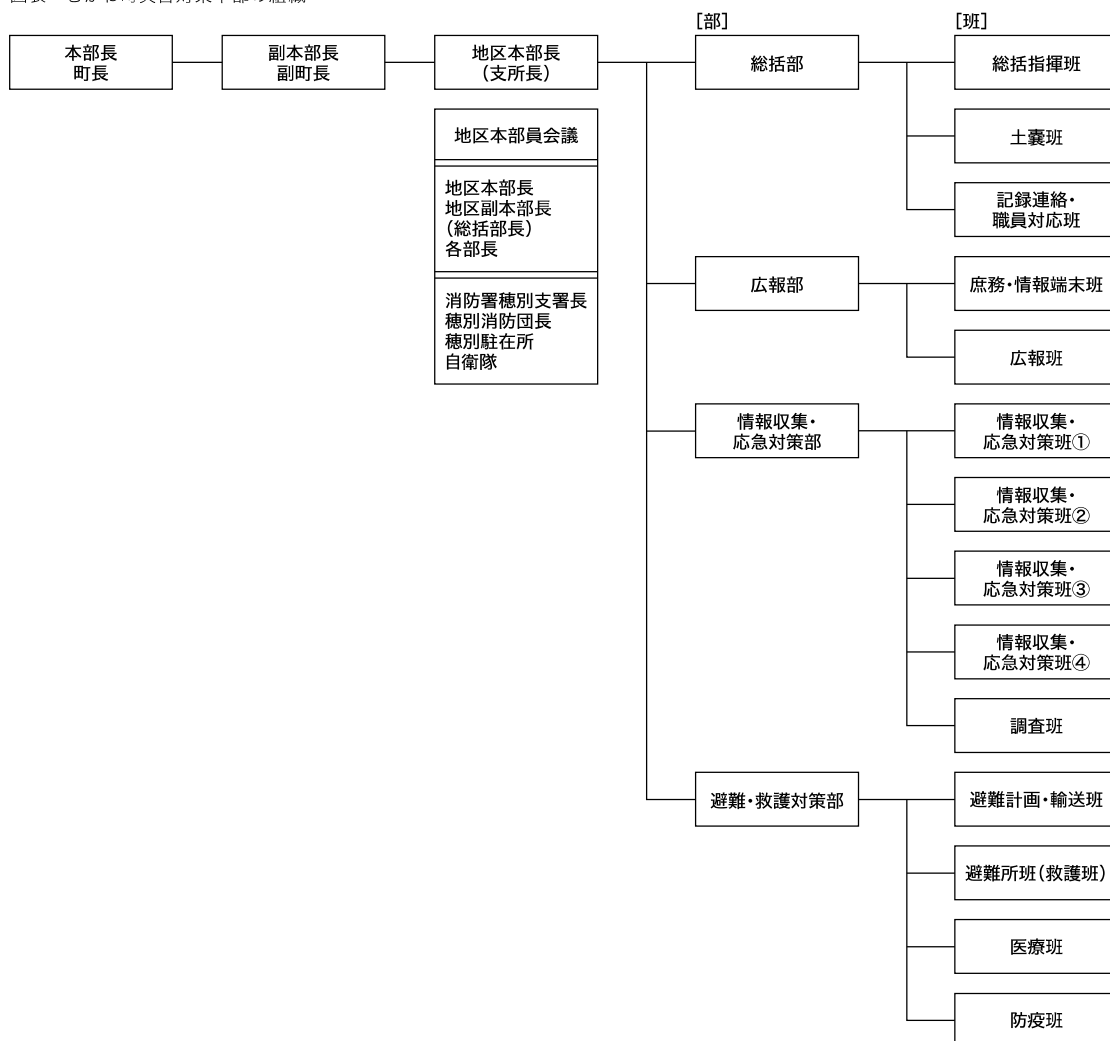
むかわ町地域防災計画は、「総則」、「風水害防災計画」、「災害応急対策計画」、「災害復旧・防災訓練計画」と、様々な災害への対応を目的とした内容で構成され、町や各防災関係機関が処理すべき災害の各段階（予防を含む。）・分野における業務等が定められている。

② 災害応急対策等の活動体制

むかわ町で災害が発生し、その被害が相当規模を超えると見込まれる場合には、災害対策基本法に基づき、災害対策本部を設置し、災害応急対策を迅速、的確に実施するとともに、道の災

害対策本部及び地方支部と密接な連絡調整を図り、支援、協力等を求めることとしていた。災害対策本部の組織は次の図表のとおりである。本部員会議は、本部長（町長）、副本部長（副町長）、本部付及び本部員で構成され、災害応急対策の総合的方針を決定するとともに、各部において実施する災害応急対策の連絡、調整を行う。各部は、災害活動組織として、本部員会議の決定した方針に基づき、災害応急対策の実施に当たる。地区本部は、地区内における災害活動組織として情報収集を行い、本部と緊密に連絡の上、災害応急対策に当たることとしていた。

図表 むかわ町災害対策本部の組織



3 防災訓練等の状況

①むかわ町防災訓練

鵜川・穂別両地区では、地区ごとに毎年、防災訓練を行っている。

鵜川地区は、災害発生時に逼迫する津波を想定した訓練を行い、穂別地区は災害発生の可能性が一番高い、土砂災害を想定し実施している。また水防については北海道開発局などが実施する水防訓練に参加し、水防工法などを習得している。

消防署は、毎年9月1日の「防災の日」に訓練を実施している。

平成30年9月1日は土曜日だったこともあり、町と消防署鵜川支署が合同で、津波想定での防災訓練を実施し、鵜川中央小学校に災害対策本部を設置し、消防署・消防団による放水訓練、車両からの救出訓練、また自衛隊第7師団による炊きだし訓練をおこなった。



防災訓練の様子

②自主防災組織

地域のコミュニティによる自主防災組織の必要性の高まりから、町内の自主防災組織の結成促進や組織育成を進め、町内54自治会町内会の内27自治会町内会で自主防災組織が結成されている。

各自主防災組織は、災害に備え、発電機や備蓄食料など防災備品を整備し、防災訓練には積極的に参加している。

防災組織育成のため、町は防災活動促進補助金を、年30万円で3年間（総額90万円）を、防災対策備蓄品購入に充てられる制度で支援を行ってきた。



自主防災組織による訓練



避難訓練の様子（平成30年・鵜川中央小学校）

第3章 地震の概要

1 地震の概要

平成30年9月6日（木）午前3時7分に、胆振地方中東部を震源とするマグニチュード（M）6.7の地震が発生し、厚真町で震度7、むかわ町、安平町で震度6強を観測したほか、道内ほぼ全域で震度6弱～1を観測した。気象庁ではこの地震に対して、最初の地震波の検知から7.3秒後の3時8分12.6秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、地震は陸のプレート内で発生し、発震機構は東北東－西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で

あった。気象庁は、今回の地震について、胆振地方東部を中心に顕著な被害が発生したことから、その名称を「平成30年北海道胆振東部地震」と定めた。

この地震の後、震源周辺では地震活動が活発になり、最大震度1以上を観測する地震は平成31年3月31日（日）までに344回発生した。

この地震により、死者43人（むかわ町1人を含む）などの被害を生じた。

図表 地震の概要

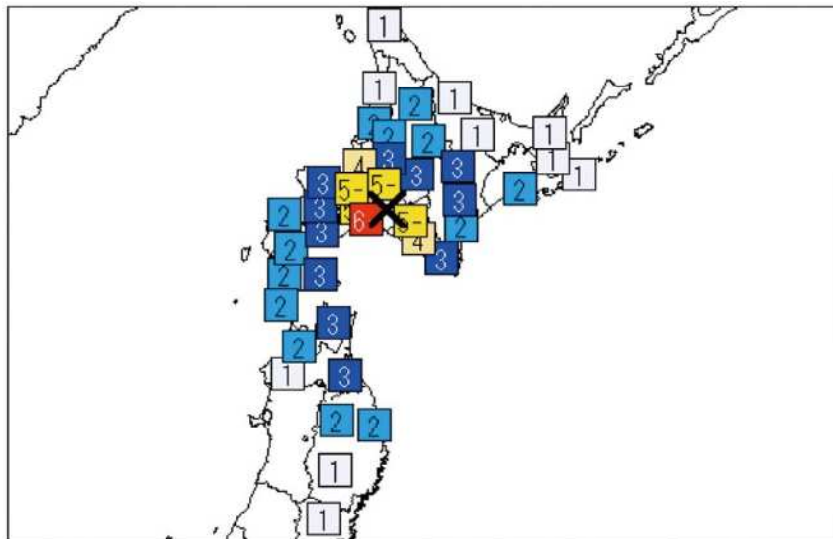
地震名	平成30年（2018年）胆振東部地震
地震発生時刻	平成30年9月6日03時07分59.3秒
震源位置	胆振地方中東部（北緯42度41.4分、東経142度00.4分、深さ37km）
規模（マグニチュード）	6.7（モーメントマグニチュード）
むかわ町震度	震度6強
国内最大震度	震度7（厚真町）

（出典：気象庁）

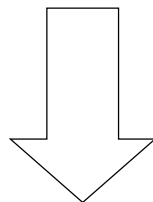
図表 地域毎の震度分布

平成31年2月21日21時22分頃の胆振地方中東部の地震

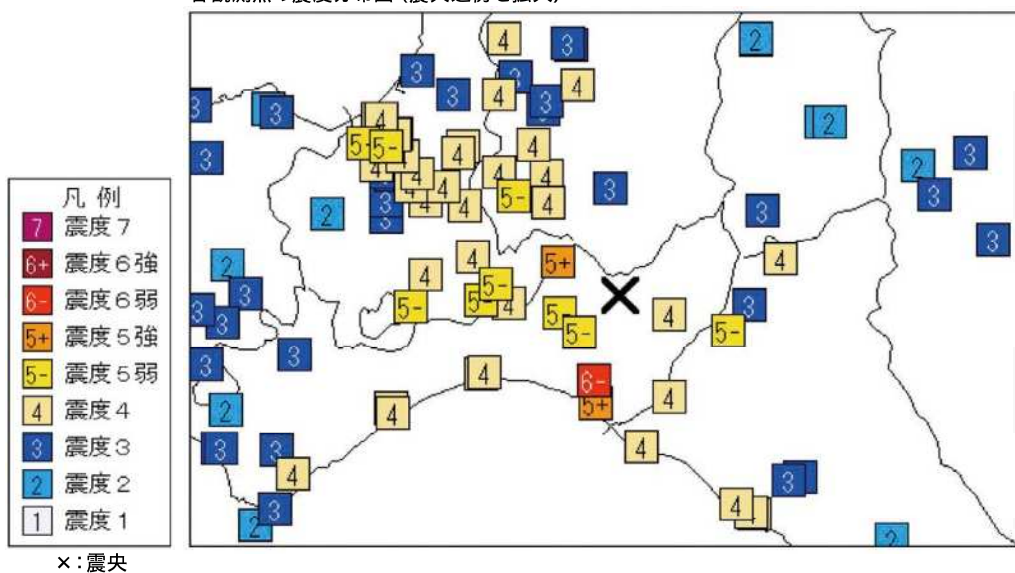
震度分布図



各地域の震度分布



各観測点の震度分布図（震央近傍を拡大）

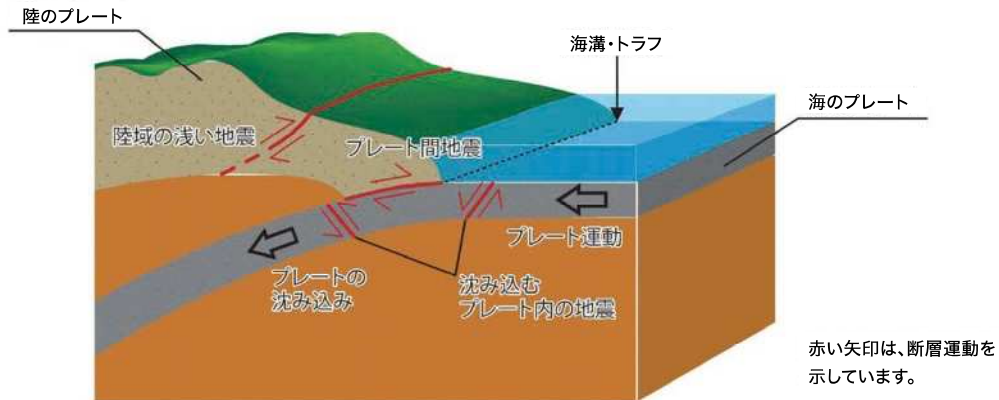


(出典: 気象庁)

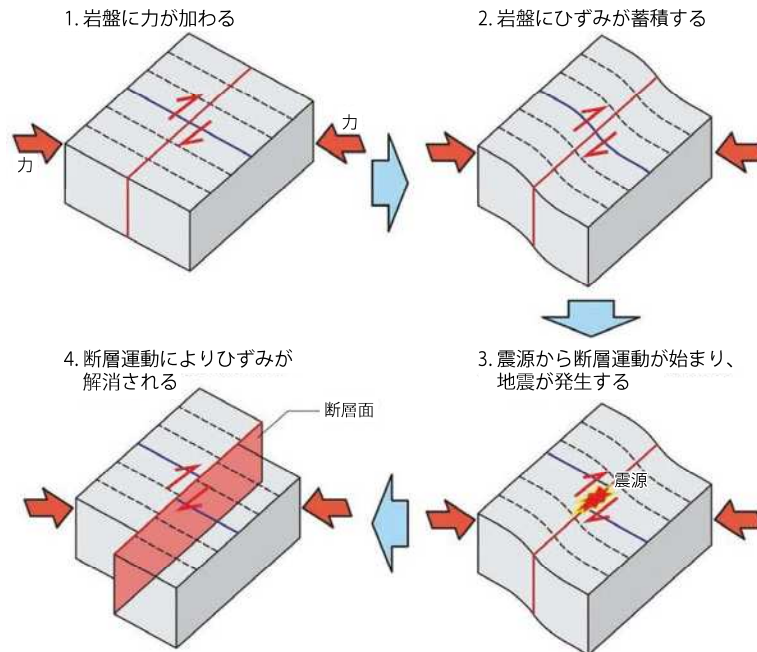
この地震は陸のプレート内で発生し、発震機構は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層

型であり、【地震のタイプの模式図】の①に該当するものである。

図表 地震発生メカニズム



地震は、断層運動により発生します。断層運動とは、ある面(断層面)を境にして両側の岩盤がずれ動く現象です。プレート運動により岩盤中に蓄積されたひずみのエネルギーは、急激な断層運動により地震波となって放出されます。



※模式図は『地震調査研究推進本部作成パンフレット「地震がわかる」』より

緊急地震速報

気象庁は9月6日03時07分の胆振地方中東部の地震（M6.7）に対して、地震検知から7.3秒後に緊急地震速報（警報）第1報を、地震検知から14.7秒後に緊急地震速報（警報）第2報を発表した。第1報、第2報とも、地震計で観測された揺

れの強さから予測した震度が、緊急地震速報（警報）の発表・更新基準を超えたことを契機に発表した。ただし、この地震の震源は内陸であったため、震度6強を観測した本町では緊急地震速報（警報）が主要動の到達に間に合わなかった。

災害時地震報告 平成30年北海道胆振東部地震

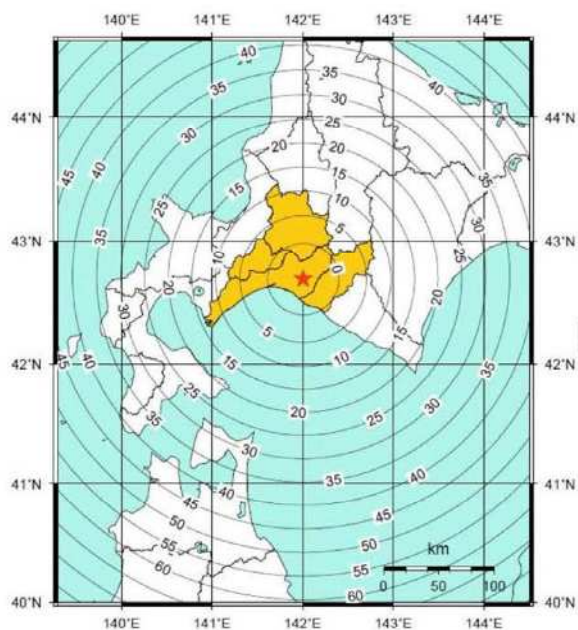


図1-2-1
警報第1報を発表した地域と
発表から主要動到達までの時間（秒）

★ 震源
緊急地震速報（警報）を発表した地域

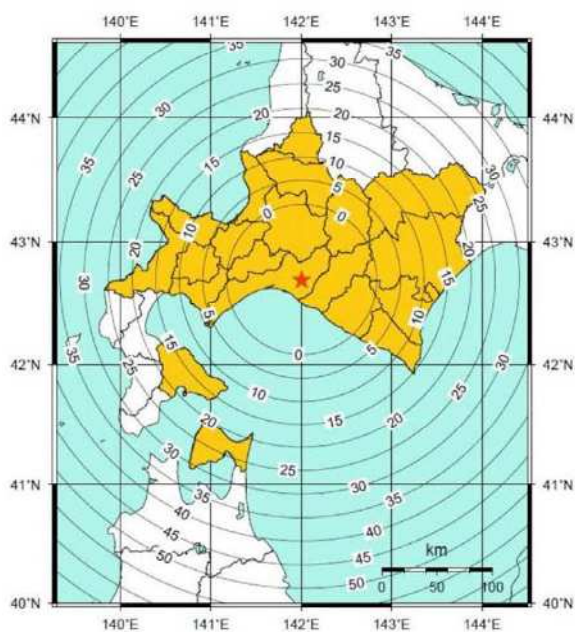


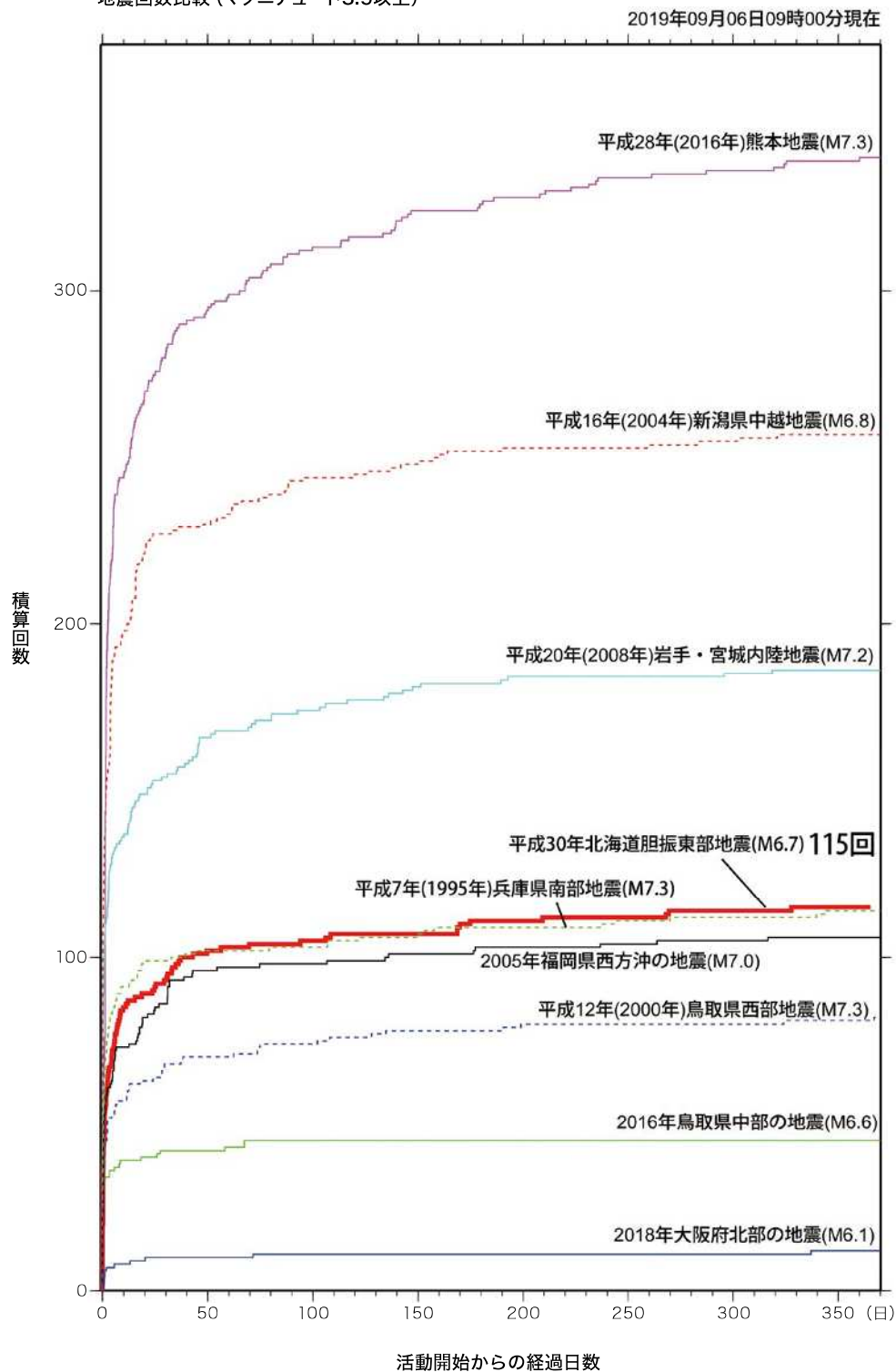
図1-2-2
警報第2報を発表した地域と
発表から主要動到達までの時間（秒）

★ 震源
緊急地震速報（警報）を発表した地域

（出典：気象庁）

図表 地震回数の比較、震央分布図の例

内陸および沿岸で発生した主な地震の
地震回数比較 (マグニチュード3.5以上)

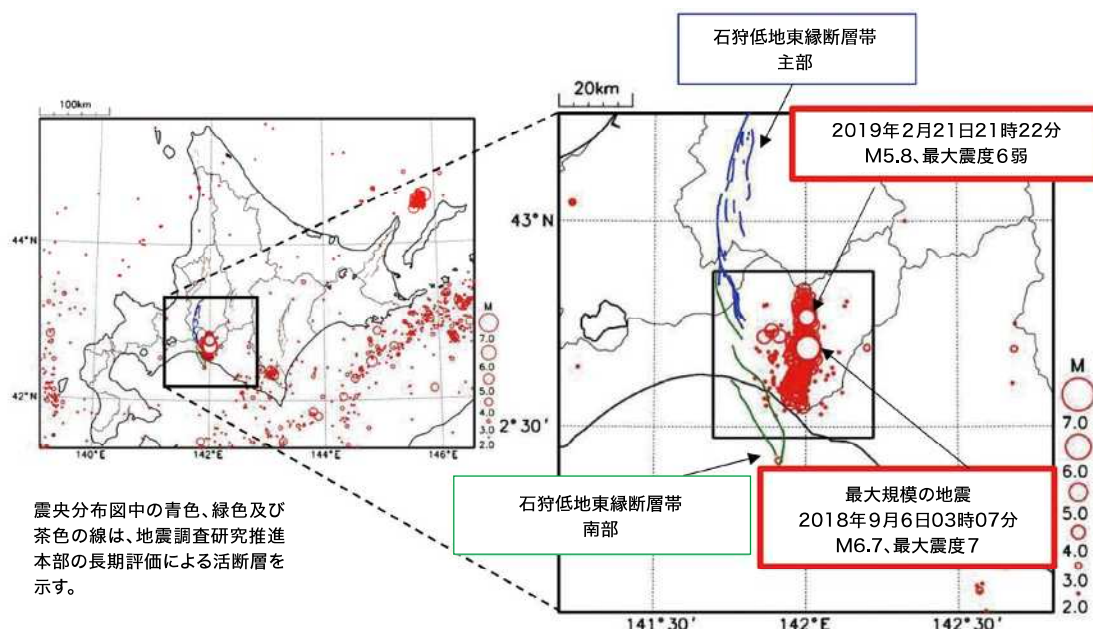


※この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがあります。
※地震のマグニチュードについては、これまでの最大を示している。

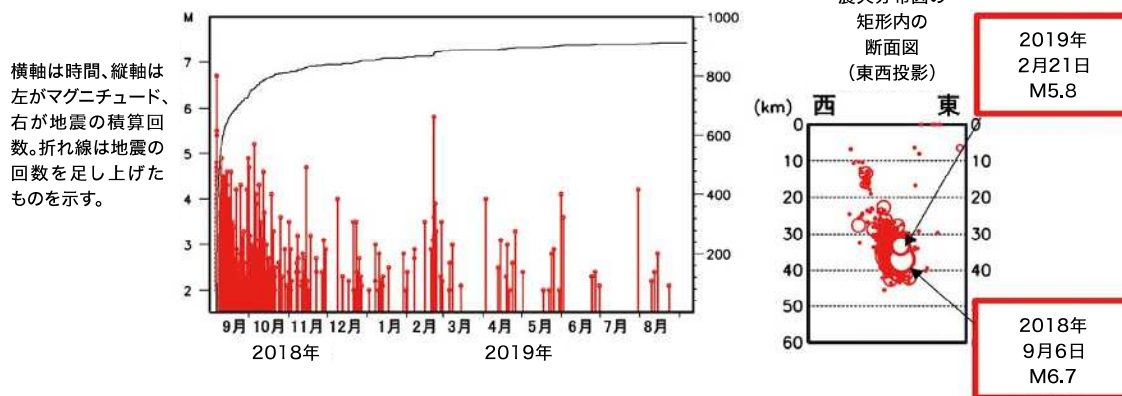
(出典：気象庁)

「平成30年北海道胆振東部地震」
地震活動の状況（2019年9月6日09時00分現在）

震央分布図
（2018年9月6日00時00分～2019年9月6日09時00分、 $M \geq 2.0$ 、深さ0～60km）



震央分布図の矩形内の地震活動経過図及び回数積算図



<本資料の利用上の留意点>

- ・2019年9月5日以降の震源は、精査前の震源で、自動処理による結果を含みます。
- ・自動処理による震源には、発破等の地震以外のものや、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

（出典：気象庁）

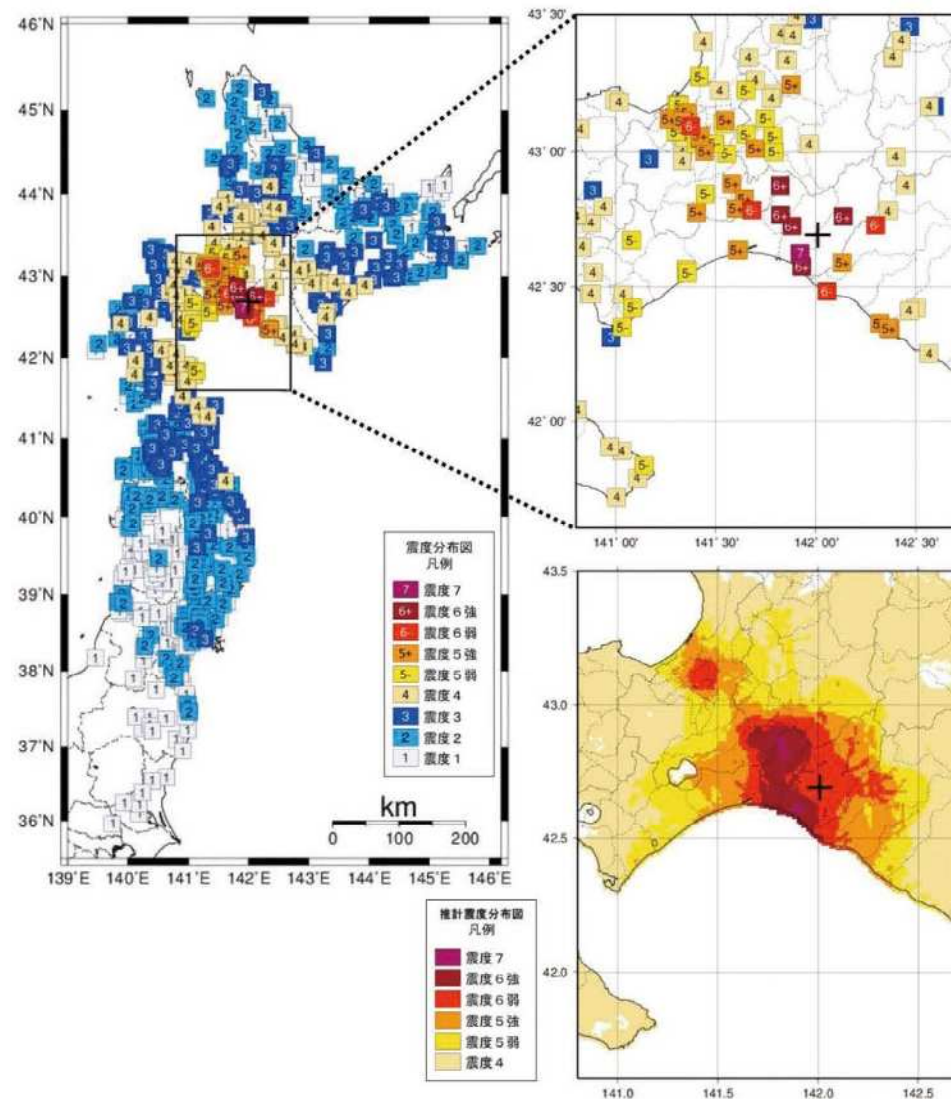
また、この地震を本震とする余震が相次いで発生した。9月6日の本震発生以降、全道において、

翌年3月5日までに震度1以上を観測した地震は下表のとおりである。

図表 地震の発生状況
(平成30年9月6日～平成31年3月5日全道で観測した地震)

震度分布

最大震度7を観測した9月6日03時07分の地震の震度分布と推計震度分布図を図1-1-1に示す。



<推計震度分布図について>

地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なることがある。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれるため、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがある。

このため、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目して利用されたい。なお、この推計震度分布図は震度の精査後に再作成したものであり、地震発生直後に発表したものと一部異なる。

図1-1-1

9月6日03時07分 胆振地方中東部の地震（深さ37km、M6.7、最大震度7）の震度分布図
(+印は震央を示す)

(地震発生直後に発表した震度データに加え、その後入手した震度データも用いて作成)

(出典：気象庁)

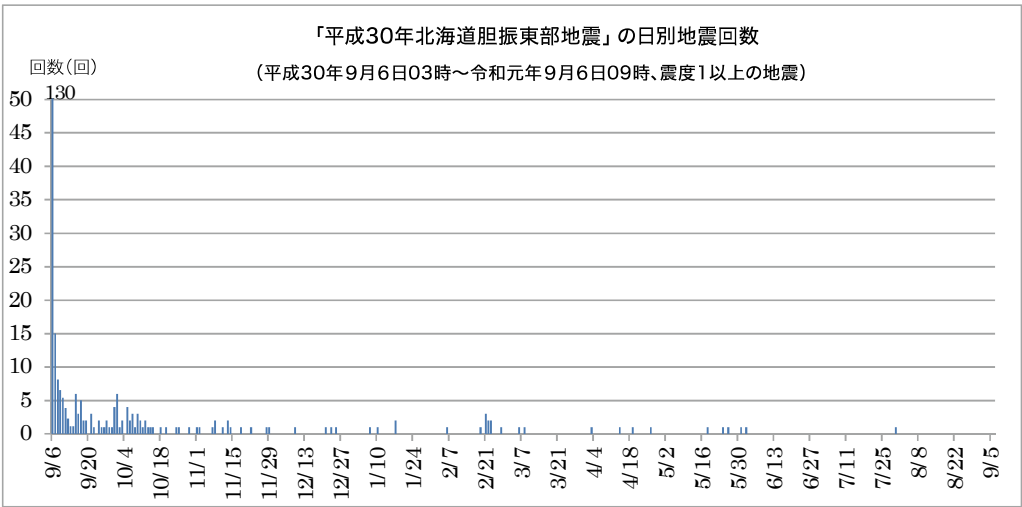
「平成30年北海道胆振東部地震」の最大震度別地震回数表

令和元年9月6日9時現在

平成30年9月6日03時～令和元年9月6日09時、震度1以上
(注) 掲載している値(速報値)は精査により暫定値となります。その後の調査でも変更する場合があります。

月 別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備 考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
9/6－9/30	151	75	33	16	1	0	0	0	1	277	277		
10/1－10/31	22	6	2	4	1	0	0	0	0	35	312		
11/1－11/30	8	4	0	1	0	0	0	0	0	13	325		
12/1－12/31	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4	329		
1/1－1/31	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	333		
2/1－2/28	6	2	1	0	0	0	1	0	0	10	343	※	
3/1－3/31	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	345		
4/1－4/30	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	349		
5/1－5/31	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4	353		
6/1－6/30	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	354		
7/1－7/31	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	355		
8/1－8/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	355		
9/1－9/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	355		
総計	198	92	40	21	2	0	1	0	0	355			

※[2/23更新]精査により2月21日の震度2の回数を0回から1回へ変更しました。



(出典：気象庁)

図2-1-5 震度1以上の日別地震回数（2018年9月6日03時～10月31日24時）

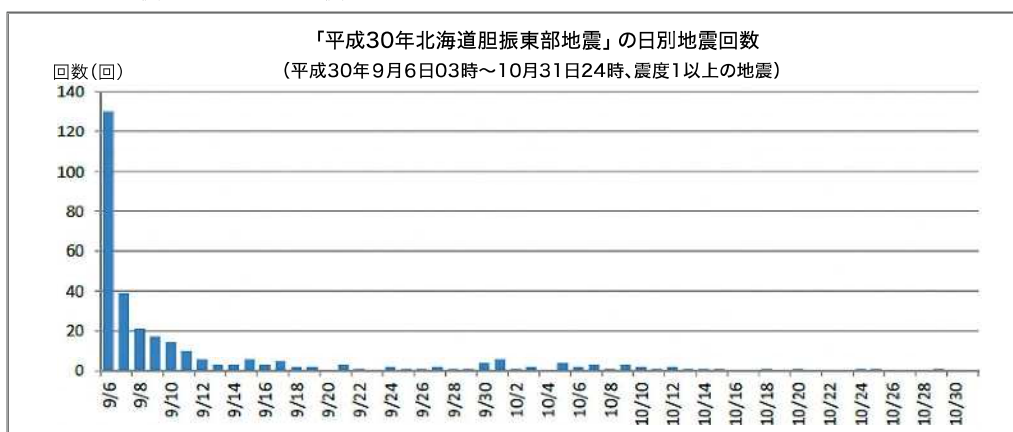


表2-1-2 最大震度4以上を観測した地震（2018年9月6日03時～10月31日24時）

番号	発震時		震央地名	深さ	M	最大震度
1	9月6日	03時07分	胆振地方中東部	37km	6.7	7
2	9月6日	03時17分	胆振地方中東部	33km	4.7	4
3	9月6日	03時20分	胆振地方中東部	36km	5.5	4
4	9月6日	03時23分	胆振地方中東部	32km	4.8	4
5	9月6日	03時32分	胆振地方中東部	34km	4.6	4
6	9月6日	04時10分	胆振地方中東部	32km	4.7	4
7	9月6日	06時04分	胆振地方中東部	31km	4.4	4
8	9月6日	06時11分	胆振地方中東部	38km	5.4	5弱
9	9月7日	13時25分	胆振地方中東部	35km	4.5	4
10	9月7日	22時43分	胆振地方中東部	36km	4.4	4
11	9月8日	18時21分	胆振地方中東部	34km	4.2	4
12	9月9日	22時55分	胆振地方中東部	35km	4.9	4
13	9月11日	04時58分	胆振地方中東部	32km	4.5	4
14	9月11日	19時07分	胆振地方中東部	34km	4.2	4
15	9月12日	18時24分	胆振地方中東部	33km	4.5	4
16	9月14日	06時54分	胆振地方中東部	26km	4.6	4
17	9月17日	02時51分	胆振地方中東部	28km	4.6	4
18	9月30日	17時54分	日高地方西部	37km	4.9	4
19	10月1日	11時22分	胆振地方中東部	35km	4.7	4
20	10月5日	08時58分	胆振地方中東部	31km	5.2	5弱
21	10月8日	21時53分	胆振地方中東部	32km	4.3	4
22	10月9日	02時45分	胆振地方中東部	32km	4.3	4
23	10月12日	09時14分	胆振地方中東部	23km	4.6	4

表2-1-3 これまでに最大震度7を観測した地震（1949年以降）

発生年月日	地震名	M	震度7を観測した観測点・地域
1995年 1月17日	平成7年(1995年)兵庫県南部地震(※1)	7.3	神戸市等阪神淡路地域(兵庫県)
2004年10月23日	平成16年(2004年)新潟県中越地震	6.8	長岡市東川口(新潟県)
2011年 3月11日	平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震	9.0	栗原市築館(宮城県)
2016年 4月14日	平成28年(2016年)熊本地震	6.5	益城町宮園(熊本県)
2016年 4月16日	平成28年(2016年)熊本地震	7.3	益城町宮園、西原村小森(熊本県)
2018年 9月 6日	平成30年北海道胆振東部地震	6.7	厚真町鹿沼(北海道)

※1「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」の震度7は現地調査による。

(出典：気象庁)

今回の地震発生前後における周辺の地震活動

今回の地震発生前の周辺の地震活動

最近約20年間の活動をみると、今回の地震活動域周辺では、2013年までは定常的な活動は比較的少なく、M3程度の地震が時々発生していた。M6.7の地震の震源から南西に約20km離れた場所では、2014年11月3日と2015年1月1日にはそれぞれM4.6とM4.5の地震が発生しており、2ヶ月間にM4.0以上の地震が2回発生したが、その前後で活発な地震活動はみられていない。M6.7の地震の震源から北西に約20km離れた場

所では、2017年7月1日にM5.1の地震（最大震度5弱）が発生し、その後地震活動がやや活発となった（図2-2-1、図2-2-3）。また、今回の地震発生前の周辺の地震活動は、陸のプレート内部で発生しているが、今回の地震活動と同様に、国内の陸域の浅い場所（地殻内）で通常発生する地震（深さ20km以浅）に比べてやや深い場所（深さ40km程度）まで分布している（図2-2-2、図2-2-4）。

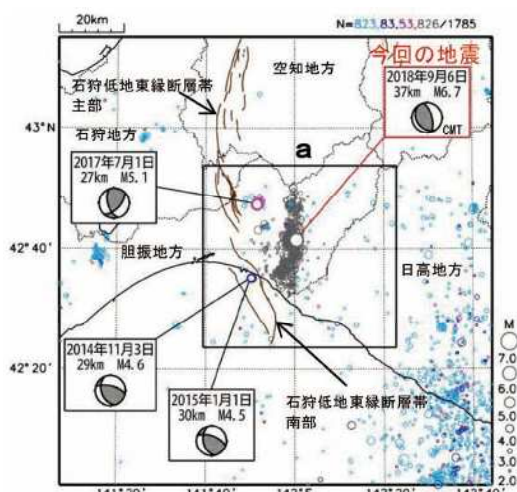


図 2-2-1 震央分布図（1997年10月1日～2018年10月31日、M $\geq$ 2.0、深さ0～60km）

※発生期間により以下の通り色分けして表示している。

水色：1997年10月1日～2014年10月31日

青色：2014年11月1日～2017年6月30日

桃色：2017年7月1日～2018年9月5日

灰色：2018年9月6日～2018年10月31日

※今回の地震と2018年9月5日以前のM4.0以上の地震に吹き出しを付加している。

茶色の線は地震調査研究推進本部地震調査委員会の長期評価による活断層を示す。

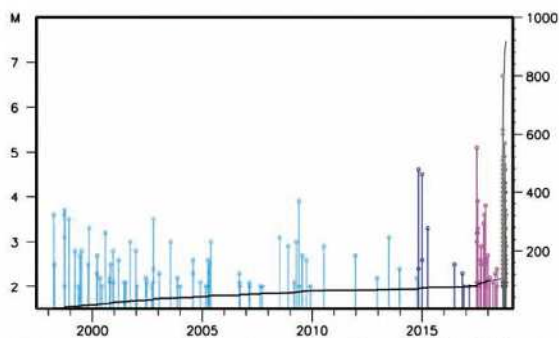


図 2-2-3 領域 a 内の M-T 図及び回数積算図

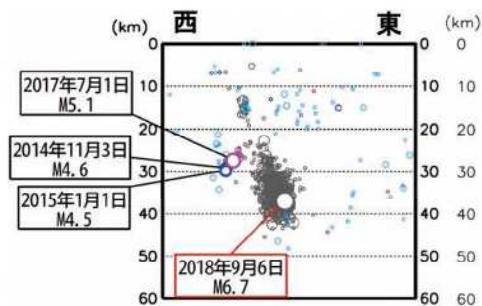


図 2-2-2 領域 a 内の断面図（東西投影）

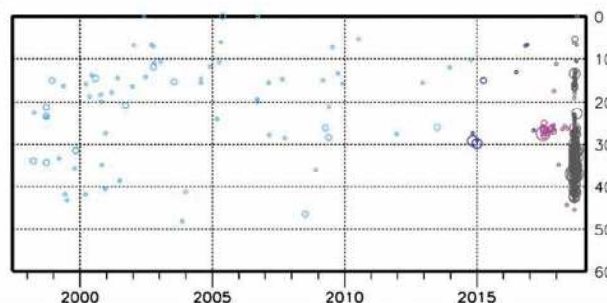


図 2-2-4 領域 a 内の深さの時系列図

（出典：気象庁）

地震活動の見通しについて

気象庁は、平成28年8月19日に地震調査研究推進本部地震調査委員会が公表した「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」で提

言された以下事項をふまえ、大地震後の地震活動に対する防災上の呼びかけを実施することとしている。

- ・大地震発生から一週間程度は、最初の大地震と同程度の地震への注意を呼びかけることを基本とし、過去の事例や地域特性に基づいた見通しや地震発生状況を発表した。
- ・一週間程度以降は、余震発生確率の評価手法に基づいた最大震度◇以上となる地震の発生確率を、「当初の1／○程度」「平常時の約△倍」等の数値的見通しとして付加して発表した。
- ・周辺に活断層等がある場合、地震調査委員会の長期評価結果等に基づいた留意事項を呼びかける。
- ・防災上の呼びかけにおいては「余震」ではなく「地震」という言葉を用いた。

9月6日のM6.7の地震に引き続く活発な地震活動域の付近には、地震調査委員会において長期評価が実施された活断層として、「石狩低地東縁

断層帯」が存在する。なお、この地震の付近で過去に地震活動が続発した事例は確認されていない。

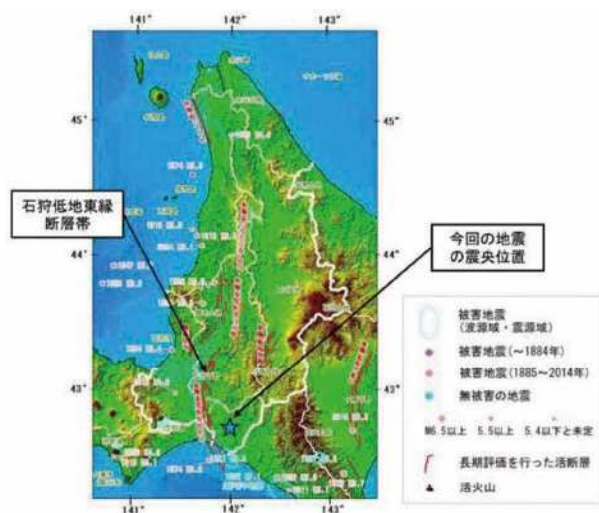


図2-4-1
9月6日03時07分に発生した地震の震源周辺の活断層について

活断層や震源位置等は、地震調査研究推進本部地震調査委員会による

引用 URL
https://www.static.jishin.go.jp/resource/regional_seismi_city/hokkaido/p01_chubu.jpg

これらをふまえ、気象庁は地震発生直後及びその翌日以降の記者会見等において、地震活動

の見通しとして以下の呼びかけを行った。

9月6日05時10分発表

- ・地震発生後1週間程度、最大震度6強程度の地震に注意が必要である。特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多い。

9月6日10時30分発表

- ・地震発生後1週間程度、最大震度6強程度の地震に注意が必要である。特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多い。

その後、15時30分の報道発表（震度データが入電していなかった地点のデータが入電し、厚真町で震度7を観測していたことが判明）を踏まえ、17時30分の報道発表では以下の通り呼びかけを行った。

9月6日17時30分発表

- ・地震発生後1週間程度、最大震度7程度の地震に注意が必要である。特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多い。

（出典：気象庁）

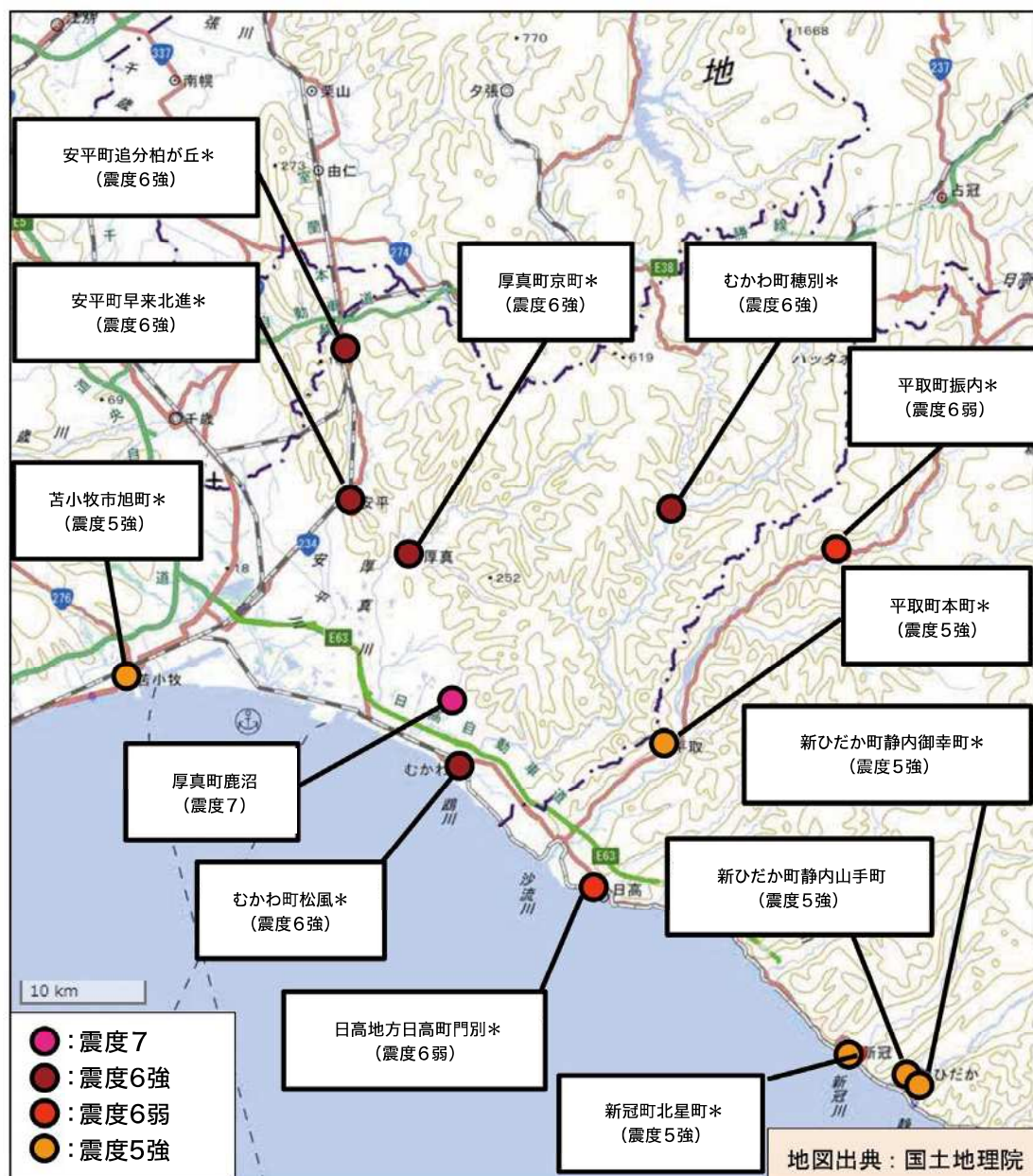


図3-4-1 調査地域（胆振・日高地方 震度観測点）

（＊は地方公共団体もしくは国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点）

（出典：気象庁）



写真1 スロープ下のひび割れ
(むかわ町美幸)



写真2 舗装のひび割れ
(むかわ町美幸)



写真3 舗装のひび割れ
(むかわ町美幸)



写真4 塀壁の崩れ
(むかわ町美幸)

むかわ町穂別（震度6強）

- ・建物等の被害状況

観測点周辺で若干の地盤の地割れが見られた。



図3-6-6 むかわ町穂別震度観測点周辺地図

(出典：気象庁)

むかわ町松風（震度6強）

・建物等の被害状況

国道沿いの古い商店街の家が倒壊した。特に東

西方向の町道に面した建物に大きな被害が集中した（下図赤破線楕円）。また、周辺の地盤の地割れが見られた。



図3-6-5 むかわ町松風震度観測点周辺地図

(出典：気象庁)

2 大規模停電（ブラックアウト）の概要

地震発生からブラックアウトに至る経緯

今回の事象は、苫東厚真火力発電所1、2、4号機の停止及び地震による狩勝幹線他2線路（送電線4回線）の事故による水力発電の停止の複合要因により発生した。

北本連系設備のマーヅンを活用し、電力の緊急融通を行い周波数を回復させたが、最大受電量に達したため、苫東厚真火力発電所1号機のトリップ時（インバータからモータへの電力供給を遮断する）は、周波数調整機能が発揮できず大

規模停電（ブラックアウト）に至った。

ブラックアウトに至る事象については、送電線の事故箇所を確認できたことから、主として、苫東厚真発電所1、2、4号機の停止に加え、地震の揺れによる送電線4回線事故（これに伴う道東水力の停止）が複合要因となり発生したことを確認。シミュレーションの結果、水力の停止が発生しなかった場合はブラックアウトには至らなかったと考えられている。

① 地震発生からブラックアウトに至る経緯について

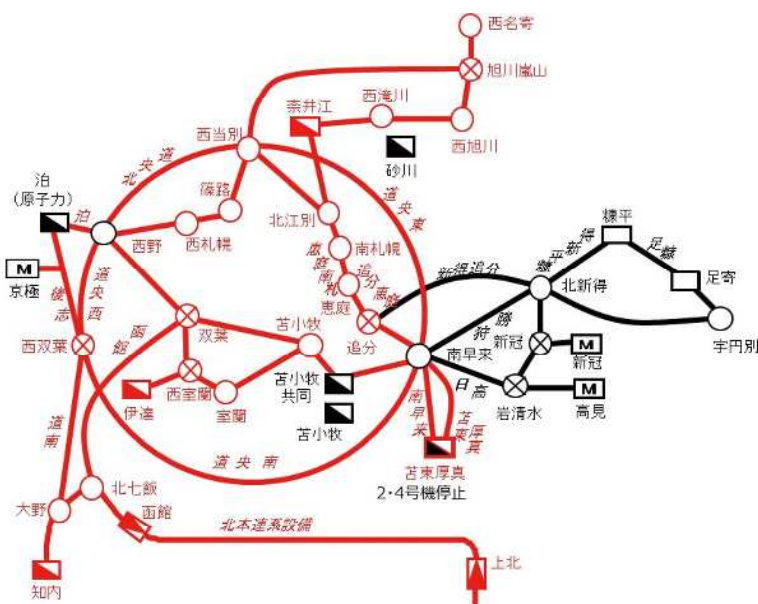
地震発生直後①（地震発生～周波数回復）

■ブラックアウトに至る事象については、送電線の事故箇所を確認できたことから、主として、苫東厚真発電所1、2、4号機の停止（N-3事故）に加え、地震の揺れによる送電線4回線事故（N-4事故）（これに伴う道東水力の停止）が複合要因となり発生したことを確認。シミュレーションの結果、水力の停止（N-4）が発生しなかった場合はブラックアウトには至らなかったと考えられる。

《送電線事故による道東のルート断》

多くの水力発電所が接続する道東・北見エリアにつながる3線路が地震により停止、道東エリアが単独系統となった後に水力が停止した。

図表 送電線事故による道東のルート断状況



地震の揺れにより①ジャンパー線が
②鉄塔に接触

（出典：電力広域的運営推進機関）

■発電機の運転状況は下表のとおり。

■火力発電所の一部は、深夜需要に合わせて停止しており、短時間での起動が出来ないことから翌日の需要カーブに合わせて

- ・砂川3・4号機、奈井江2号機を順次起動
- ・伊達1号機や音別1・2号機は停止を継続する計画であった。

■火力発電所の出力は、メリットオーダー順に発電しており、苫東厚真を高出力、その他の火力は最低出力としていた。

図表 地震発生直前の系統状態

供給力				定格 (MW)	出力 (MW)	火力運転計画
火力	砂川	3号機	石炭	125	0	11:00並列予定
		4号機		125	0	14:00並列予定
	奈井江	1号機	石炭	175	61	運転中
		2号機		175	0	5:30並列予定
	苫小牧	1号機	重原油・天然ガス	250	0	作業停止※ ¹
	苫小牧共同	3号機	重油	250	0	作業停止
	伊達	1号機	重油	350	0	バランス停止※ ²
		2号機		350	76	運転中
	苫東厚真	1号機	石炭	350	338	運転中
		2号機		600	556	運転中
		4号機		700	598	運転中
	知内	1号機	重油	350	96	運転中
		2号機		350	0	作業停止
	音別	1・2号機	軽油	148	0	バランス停止
水力	新冠1・2号機、高見1号機 糠平1号機、足寄1・2号機			361	69	運転中
	京極1・2号機、高見2号機、糠平2号機			521	0	作業停止
	その他			—	711	運転中
主な風力※ ³				319	166	運転中
その他※ ⁴				—	344	運転中
北本連携施設 (北海道側受電最大)				600 (約570)	72	運転中
需要				—	3087	

(表の補足)

※1:「作業停止」とは、定期検査などにより停止した状態

※2:「バランス停止」とは、需給バランスで運用上停止した状態

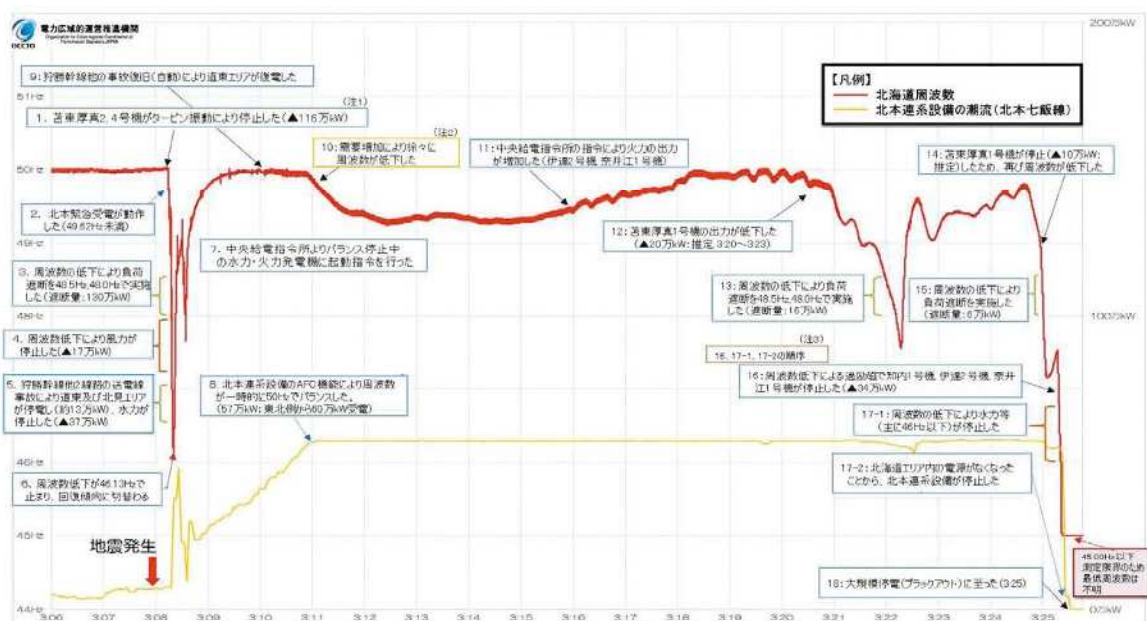
※3:中央給電指令所がテレメータ(遠隔測定)情報を受信している水力・風力

※4:「その他」は需要から火力・水力・主な風力・北本連系設備の合計を差し引いた自家発電等

(出典:電力広域的運営推進機関)

- 地震発生からブラックアウトに至るまでの間に発生した事象を明らかにし、周波数変動を説明。
- 一部に推測を含むが概ね全ての事象はほぼ間違いの無い事実として確認。一連の事象は需要と供給のバランスで生じる周波数変動で説明できる。

図表 本検証委員会により事実認定が行われた事象



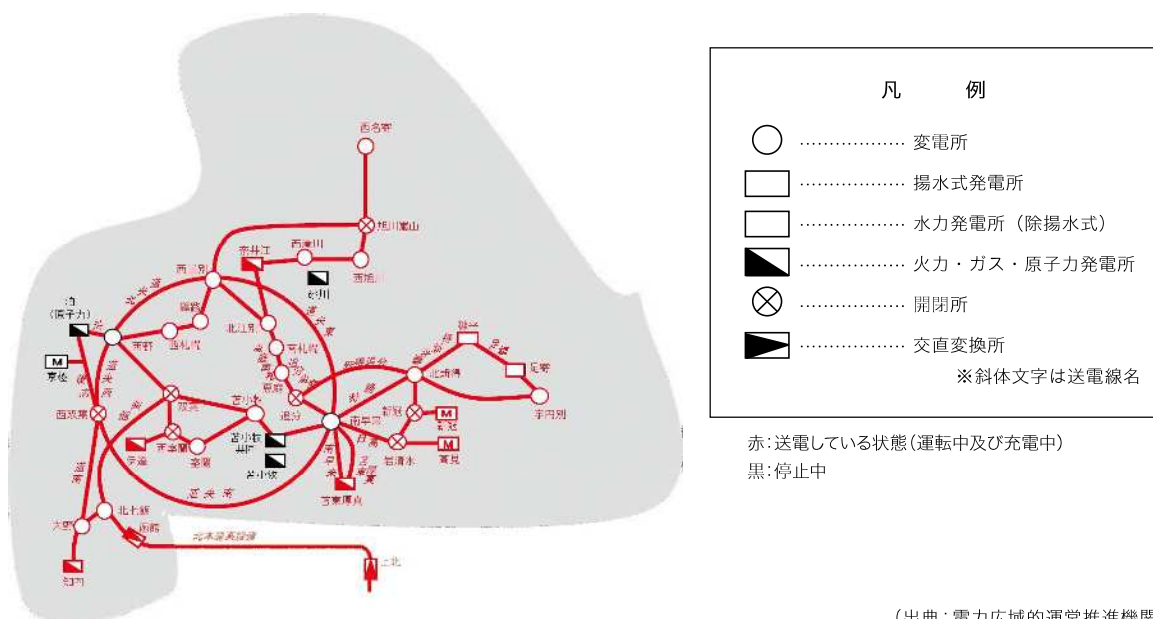
《枠囲みについて》

- （注1）記録や因果関係が明らかでありほぼ間違いのない事実として認められること
- （注2）データから考えて推測などを含むが可能性の高い事実として認められること
- （注3）現時点で明らかではないが可能性のある又は否定できないこと

（出典：電力広域的運営推進機関）

地震発生直前の系統状態③

図表 北海道エリアの総需要3,087MW(発電端)



（出典：電力広域的運営推進機関）

- 北本連系設備については、マージンを活用して期待していた緊急融通が動作していた。
- ただし、北本連系設備は最大受電量の状態が続き、本来備えていた急速な変動を調整する機能を発揮できなかった。
- 今回の事象を踏まえれば、結果としてマージンの確保量で賄うことはできなかった。
- 現在、新たなルートとして北斗今別直流幹線を通す新北本連系設備を建設し、2019年3月に運転を開始した。

図表 地震発災からブラックアウトに至る経緯



— 北海道周波数
— 北本連系設備潮流（北本七飯線）

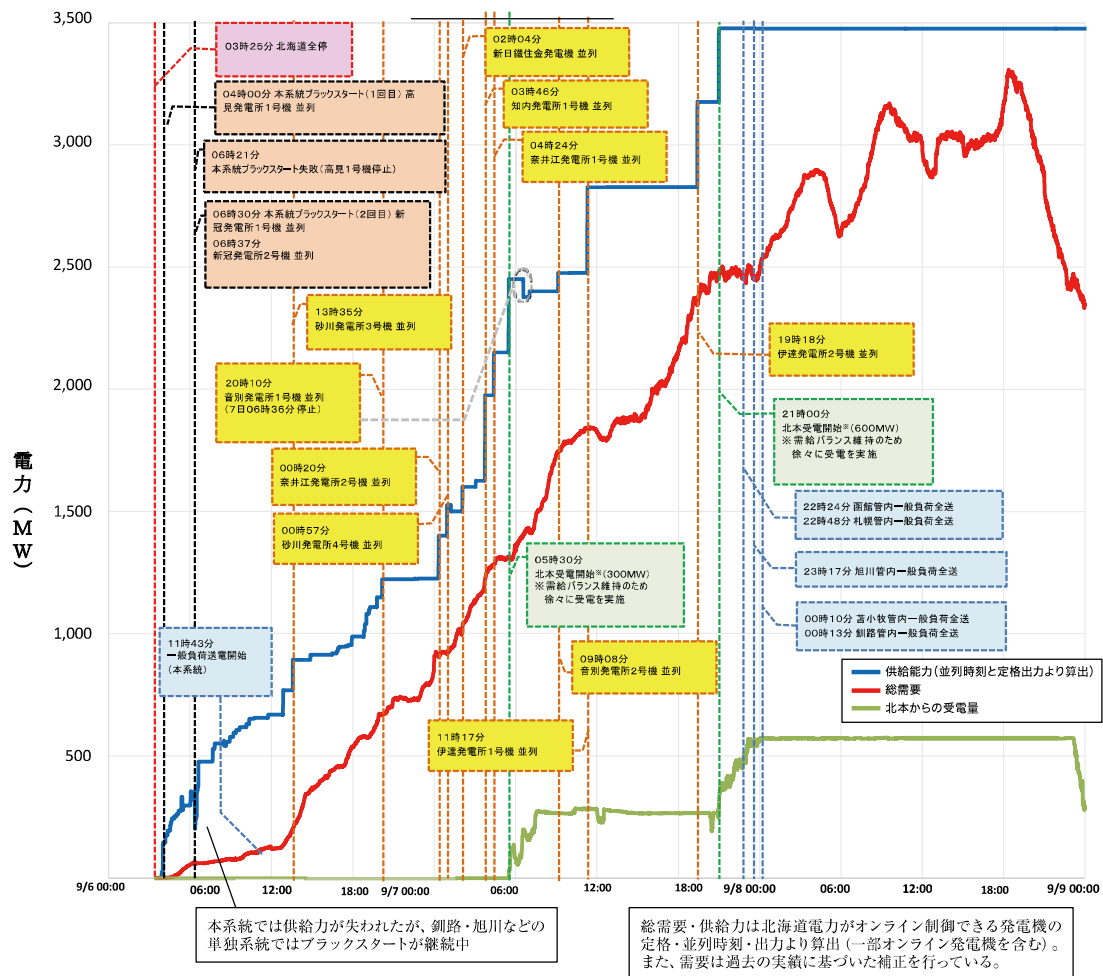


(出典：電力広域的運営推進機関)

2 ブラックアウトから一定の供給力確保に至る経緯について

- ブラックアウト後から一般負荷送電（一定の供給力（約300万kW）確保に相当）に至るまでの復旧状況について「停電の早期解消」の観点から検証を行った。
- 手順書に定められた手順どおりに適切に復旧が進められたが、ブラックアウトから概ね全域に供給できるまで45時間程度を要している。

図表 本検証委員会により事実確認が行われたブラックアウトから一定の供給力確保に至るまでの復旧に係る時系列の整理



約45時間

(出典：電力広域的運営推進機関)

第4章 むかわ町における被害の状況

1 被害概況

① 人的被害

胆振東部地震において、本町で死亡が確認された死者数は1人、重傷者27人、軽傷者250人（北海道警調べ）であった。また、他市町村で被

災された方を含めた地震の被害状況は、死者43人、重傷者48人、中等症8人、軽傷者726人であった。

図表 むかわ町の死者・行方不明者数（平成31年3月31日現在）

死 者	重傷者	軽傷者
1人	27人	250人

※死者は、死亡届が出されたものを集計

図表 市町村別の死者・行方不明者数（平成31年3月31日現在）

市町村	死 者	重傷者等	計
厚真町	37	61	98
安平町	0	17	17
苫小牧市	2	24	26
札幌市	3（災害関連死 2人含む）	295	298
新ひだか町	1	4	5
計	43	401	444

② 住家被害

本町における住家被害は、全壊40棟、大規模半壊13棟、半壊173棟、一部損壊3,260棟で、その大半が激しい揺れにより、倒壊及び損壊等の大きな被害が見られた。



地震の影響で倒壊した建物（鵜川地区）

2 ライフラインの被害状況

本町では、地震により電気、電話などの通信インフラは途絶した。電気は9月7日23時頃から美幸地区から送電が始まり8日には鵠川地区は停電が解消された。穂別地区は送電線ルートが違うこともあり、発電車による給電で復旧したが、14日には電源車から送電電線に切り替わり、全町で電気が復旧した。

水道は鵠川地区では水圧の低下や濁り水が発生したが、断水には至らなかった。穂別地区では9月6日から12日の間、最大1,031戸で断水となっ

たが、消防や自衛隊により給水を9月6日10時47分から開始した。

下水道については、ポンプ場などがブラックアウトなどにより停止したが、発電機などで対応し使用することができた。

固定電話は、地震発生直後は使用できたものの途絶したが、当日午前中には復旧した。

携帯電話は、基地局の予備電源が枯渇し徐々に使用不能となったが、9月8日には、停電が復旧したタイミングで、全面復旧した。

図表 ライフラインの被害

ライフライン	使用の可否	状況
電気	×	電力線柱が被災し送電網が壊滅したことにより停電
インターネット	×	NTT局舎・電話線柱が被災し電話線網が壊滅により使用不能
固定電話	×	NTT局舎・電話線柱が被災し電話線網が壊滅により使用不能
携帯電話	×	基地局への電源供給の断絶、幹線の被災等により使用不能
水道	△	停電及び配水管の漏水により一部地域で断水
下水道	○	下水道処理施設は被災したが、発電機等の対応により使用可能
ガス	○	プロパンガスのため使用可能

第2部

時系列で振り返る 胆振東部地震

発災から2年間の主な出来事・町の対応

第2部

時系列で振り返る胆振東部地震

1 発災から2年間の主な出来事・町の対応

月	日	主な出来事・町の対応 (平成30年)
9月	6日	3時07分 胆振地方中東部を震源とする最大震度7の巨大地震発生 (むかわ町は震度6強) ※M6.7 深さ37km 3時09分 北海道災害対策本部、官邸対策室を設置 3時15分 順次職員登庁 3時25分 道内約295万戸で大規模な停電が発生(ブラックアウト) 3時30分 室蘭地方気象台に電話で震源位置確認(多少の海面変動がありとの情報) 3時30分 穂別総合支所庁舎、停電に伴い発電機稼働 ※支所職員及び穂別地区在住職員、ほぼ登庁 3時35分 防災行政無線で汐見、晴海地区に避難呼びかけ 3時40分 「むかわ町災害対策本部」を産業会館に設置 花園・美幸など住宅倒壊、消防に救助要請入り対応 穂別地区災害対策本部設置、町内パトロール開始 (ホームタンク、プロパンガスタンク転倒確認、道路、住家等の被災状況確認) ・林道ルベシベ線、北進平取線土砂崩れ発生 ・通行止め→中島橋、安住幌毛志、道道厚真穂別線 避難所の開設準備対応 3時52分 宮戸炭焼き小屋火災 4時08分 深根時計店が倒壊し、住民2名を救助 4時15分 避難所開設完了(5か所) ・3時40分、穂別町民センター開設 ・3時50分、穂別中学校開設 (穂別小学校体育館窓枠破損等により使用不可のため、穂別中学校に変更し開設) ・4時00分、仁和会館、穂別中央生活館開設 ・4時15分、富内銀河会館開設 避難所開設の広報開始 (情報端末が停電により使用不可となり車両広報により実施) 4時37分 鶴川厚生病院の転院搬送始まる 4時40分 道の駅「四季の館」非常用発電機を稼働、通電開始 4時50分 災害対策本部緊急会議 (安否確認指示、避難所開設報告、市街地、公営住宅などパトロール実施指示) 5時00分 町内巡回を開始 5時10分 自衛隊連絡員が到着 ・5時55分、北海道よりリエゾン派遣 ・6時27分、北海道開発局よりリエゾン派遣 5時17分 スナック萩樹が倒壊の恐れがあり、町道を封鎖 5時45分 町営バスの運行を見合わせ 5時52分 役場給水所開設 5時55分 北海道より職員派遣が始まる 6時00分 北海道が陸上自衛隊北部方面隊に災害派遣要請 6時03分 自衛隊に吸着マット要請 ・6時23分、建設協会に吸着マット対応指示(灯油タンク転倒) 6時10分 119番通報が不通になり、役場が巡回広報を行う 6時13分 吸着マット300枚を自衛隊に要請 7時30分 穂別地区児童クラブ開所 ・こども園被災により、園児も含め全ての小学生以下を対象として受入 (23名利用、子ども園職員3名、クラブ職員4名配置) 7時35分 北海道警察本部札幌方面本部より3名派遣 7時45分 自主防災組織による安否確認依頼 穂別地区本部員会議開催(被害状況確認)～停電、断水が発生 町民の安否確認～自治会及び自主防災組織に依頼 7時48分 むかわ町役場に給水所を設置 8時05分 電柱傾斜のため駅前通りの通行止めを行う 8時30分 鶴川厚生病院、受入連絡なしでも受入を表明 9時22分 緑ヶ丘自治会、消防からタンスの下敷きになった男性の報告 9時44分 当該男性の死亡確認

9月	6日	10時00分	災害ごみの受入準備着手（第1大原駐車場・第2運動公園駐車場） オビラルカ4戸8名、市街地知人宅に避難
		10時30分	春日地区で土砂崩れ発生
		10時37分	鵲川厚生病院で傷病者60名、穂別診療所で軽傷者7名を治療
		10時47分	自衛隊給水車が穂別に到着し、町民センターで給水開始
		11時30分	穂別地区本部員会議開催、炊き出し実施準備（穂別中学校、町民センター） ※穂別中央生活館、富内銀河会館は自治会で炊き出し対応 自衛隊に給水要請、消防による生活用水配給を依頼 町内巡回パトロールにより、目視で倒壊の恐れのある建物無しを確認
		11時35分	本庁（鵲川地区）とのNTT回線使用可能を確認（他の外線使用不可）
		11時40分	丹波市から支援を要するか連絡あり（御船町・篠山市とも連携）
		12時30分	稲里浄水場発電機復旧
		12時44分	吸着マット、中和剤による倒壊した灯油タンクの油漏れ処理開始
		13時00分	仁和、富内地区の一部以外断水（約1,000戸）
		13時20分	富内地区水道復旧
		13時30分	穂別地区炊き出し実施
		13時50分	ボランティアが炊き出しを開始
		14時00分	仁和浄水場回復
		14時00分	災害ごみ受け入れ開始（14時09分、防災行政無線で周知）
		14時15分	穂別診療所診察状況の報告 ・骨折1名、裂傷7名、足の痛み1名、打撲2名
		15時00分	穂別地区本部員会議開催（避難所体制、広報活動、応急対応、安否確認等確認）
		15時10分	鵲川河口の堤防で数か所の破損か所を発見
		16時00分	総合支所外線復旧
		16時00分	砺波市に職員派遣要請
		16時13分	仁和地区水道復旧
		16時37分	熊本県御船町が職員2名の派遣を決定
		17時10分	デイサービスたんぽぽを福祉避難所として開設、17時32分各避難所へ通知
		17時59分	消防本部より鵲川・穂別支署に厚真への応援要請
		18時09分	災害対策本部で鵲川地区と穂別地区を結びテレビ（TV）会議実施
		18時25分	【避難勧告】栄地区 ・一番沢川ダム化による鉄砲水を懸念し、3世帯9名に避難勧告 ※9月12日17：00解除
		18時45分	自衛隊の給水車両が到着
		18時55分	避難勧告地域住民の避難確認完了（仁和会館へ避難）
		18時58分	穂別地区全域の安否確認終了
		19時30分	厚真町豊厚園より13名、職員2名避難、愛誠園で受入実施
		20時03分	テレビ会議による災害対策本部会議開催
		22時00分	水道用発電機へ給電
		23時00分	全ての携帯電話不通
		23時45分	総合支所に本庁から缶詰500個9月7日昼頃到着予定の連絡あり
		〔その他〕 ・無停電装置容量バッテリー枯渇 →全町停電と受信点ケーブル断線により、テレビ視聴不可 （加入者数1,272世帯、インターネット384回線）	
	7日	00時00分	北電より連絡あり ・移動発電機2台、タンクローリー、7日10時頃設置予定 （ふれあい公園横に2台配置）
		5時00分	水道断水（穂別市街地・豊田・和泉・栄・安住・富内の一部）
		5時15分	地区本部員会議開催 ・栄地区～一番沢川がダム化しているとの情報あり
		5時30分	北海道経由で自衛隊に鵲川・穂別両地区に対し炊き出しと風呂の支援を要請
		5時37分	ローソンからの支援物資が到着（鵲川地区）
		5時45分	避難所への朝食配布準備開始 車両広報開始（生活用水、飲料水について等） ※1か所20分程度で巡回
		5時50分	炊き出し準備開始（自衛隊協力）
		6時25分	富内地区の水道回復、富内地区の配水終了
		6時50分	水道断水～900戸（穂別地区）
		7時00分	副町長来庁（穂別地区の被災状況の確認等）
		7時50分	支援物資が初めて穂別地区に到着 （即席めん308個、缶詰500個、飲料水312本、ローソン提供300食、コーラ1,000本）
		8時00分	炊き出し提供

9月	7日	9時00分	災害ごみ受付開始～建設協会に協力依頼 ・ふれあい公園駐車場、旧中谷産業横広場 ※18時00分まで
		10時00分	地区本部員会議開催 女性消防団炊き出し対応開始（昼6名、夜4名） 町保健師、各避難所を訪問し、被災者の状態確認を実施 愛誠会からグループホーム入居者23名を町民センターから別の避難所への移動相談あり ※富内銀河会館の避難者が少なく、誠光誠和からも近距離のため富内自治会と協議し、富内銀河会館への移動対応を実施
		10時40分	自衛隊給水車到着
		10時45分	神戸物産に非常食と水の提供を要請
		10時46分	建物危険度診断調査 北海道建設部6名 市街地中心に調査
		11時30分	明徳自治会、その他農家から支援物資の提供
		12時00分	町長による鶴川地区避難所の訪問を開始 穂別診療所、救急外来のみ受付開始 （外傷2名、体調不良2名、定期受診12名）
		12時30分	【避難勧告】 共和地区9世帯18名、明徳地区3世帯7名 ※9月22日 9時45分解除
		13時18分	KDDI携帯電話の充電器提供（10台） →町民センター及び穂別中学校に各5台ずつ設置
		13時24分	地区本部員会議開催
		13時30分	水のにごり発生、平丘会館、ニサナイ地区断水 ・給水バックそれぞれ30個配布
		14時00分	明徳地区避難勧告世帯避難
		14時30分	岩手県医療チームが来町
		15時00分	国によるプッシュ型支援の物資が到着 本庁より支援物資到着
		15時10分	地区本部員会議
		16時07分	共和地区避難勧告世帯避難
		17時00分	穂別診療所診察状況報告 ・累計 外傷13名、体調不良6名、骨折1名、打撲4名、死亡1名
		17時25分	自衛隊が温ごはん1,200食を配布
		18時00分	DMAT岩手県立病院到着
		18時15分	自衛隊より、たこ飯500食、野菜カレー300食、焼き鳥504食提供 佐々木電機(株)が町民センター屋外に投光器設置協力 →給水活動、避難者支援対応として
		19時00分	災害対策本部会議開催（両地区被災状況、情報共有等）
		20時00分	本日の給水活動終了 北電担当者との通電に係る打ち合わせを実施
		21時00分	通電に向けた準備開始 ・発電機使用者に対する連絡と停止確認（消防協力、通電による火災予防対策）
		22時30分	稲里、茂別、隆農地区の水道回復を確認
		23時00分	移動発電車による給電開始、安住・富内市街地方面への給電開始（順次拡大）
		23時02分	美幸一部通電開始 ・9月8日0時55分、福住、青葉方面通電確認 順次通電確認報告
	8日	2時40分	穂別中学校避難所より、外でサイレン音を確認 職員巡回 （原因：学校施設のセコムアラーム音であることを確認）
		2時50分	穂別橋から国道274号まで通電 穂別キャンプ場方面は未通電 農協給油所から仁和方面については、別な発電機車による対応が必要な旨連絡あり。（結果的に設置せず）
		6時30分	広報、給水活動について、内部協議（広報内容等確認）
		6時40分	広報班出発（2班体制）
		7時00分	本日の給水活動開始（当面18時までとする） 通電確認（市街地、富内、安住、平丘、稲里、ダム方向）
		9時00分	災害対策本部会議開催 災害ごみの受付を開始
		9時55分	福住・青葉方面で通電開始
		11時00分	富内生きがいセンターで入浴支援を開始（22時00分まで） （多目的バスで送迎を実施）※穂別ハイヤー
		11時20分	栄地区避難勧告対象住民から勧告解除の見込み等について相談
		13時49分	北海道総合通信局からNHK及び民放の停波の報告あり
		14時00分	テレビ受信点へ発電機設置（和泉地区） 支所と避難所間の情報端末設置準備（通電に伴い実施）
		16時00分	自衛隊の炊き出し部隊が到着（明朝より提供開始）

9月	8日	16時20分 ソフトバンク携帯電話用アンテナ設置 (ハイエース搭載の移動アンテナによる対応) 16時30分 中島橋通行止め解除 16時50分 苫小牧市より職員派遣の申し出(四季の館、鵜川中央小、穂別町民センター各2名) 17時10分 町民センター避難所～避難者1名体調不良により救急車搬送 17時30分 避難者等の入浴支援のため、はくあ使用開始 22時まで (多目的バスで送迎を実施)※穂別ハイヤー 18時18分 ドコモより衛星携帯各避難所2台、避難所用充電器貸与 18時23分 町内情報端末の接続通信確認(確認台数377台) 18時40分 仁和方面通電確認 18時50分 仁和会館避難所に衛星携帯電話設置 19時00分 災害対策本部会議開催(両地区被災状況、情報共有等)
	9日	5時00分 町民センタートイレに水補給(正面入口、2階にタンク設置) 6時30分 広報関係打ち合わせ(住民周知内容等) 7時00分 熊本県御船町の職員派遣2名が到着 8時30分 さくら認定こども園午前中のみ開園(給食の関係上) 9時00分 地区本部員会議開催 ・道南バス穂別鵜川線再開 ・安住地区水質悪化により富内銀河会館取水に変更 ・穂別市街地断水中。水が出ても飲めない状況が継続。1,419戸中、580戸断水 ・穂別診療所、ケアハウスコスモスについては、水道が回復。 ・災害ゴミの集積所(ふれあい公園)は飽和状況となり、別な場所への移動が必要となった。～6人体制で実施 ・建物調査(簡易危険度判定)を実施 →認定こども園、穂別小学校、穂別中学校、スポーツセンター 発達支援センターさらに、穂別高校、子どもセンター 7カ所 9時50分 フェイスブックによる情報提供開始 9時58分 ドコモ復旧 11時15分 二宮地区の土砂災害警戒区域2世帯4人に対して避難勧告を発令 12時48分 町民センターエレベータ調査を実施～復旧見込みなし 14時00分 地区本部員会議開催 ・給水車確認→町民センター1台(夜間2台)、緑ヶ丘、道南バス出張所各1台 ・警察官空き巣警戒4名、避難所警戒3名を配置 ・建設協会による公共施設簡易検査、を実施 ・認定こども園9月10日午前中のみ開設 ・苫小牧市役所より、おむつ、お茶、はし、紙コップ、消毒スプレー等支援 ・苫小牧市から人的支援→9日から11日の3日間6人派遣 14時18分 穂別町民センターコココーラ自販機無償提供開始 (震災当時、連絡が取れず9日からの提供となっている。) 17時45分 テレビ配信応急対応により復旧済み 18時50分 【避難勧告】キウス地区2世帯9名 ・石崎沢川横で土砂崩れの恐れあり ※9月16日16:45解除 19時00分 災害対策本部会議開催 20時00分 給水関係580戸の断水が20戸まで減少 22時55分 余震(最大震度4、M5.0、穂別地区震度3) 23時05分 町内巡回パトロール実施～異常なし、診療所異常なし
	10日	00時15分 穂別中学校避難所に毛布20枚配送 2時22分 余震(最大震度2、M3.2、穂別震度1) 3時51分 余震(最大震度2、M3.7、穂別震度2) 4時13分 余震(最大震度1、M3.0、穂別震度1) 5時51分 余震(最大震度3、M3.7 穂別震度2) 8時30分 さくら認定こども園開園(8:30～16:00) ・午後の受入を開始 9時00分 地区本部員会議開催 13時00分 穂別地区給水開始 ニサナイ断水2戸 14時00分 地区本部員会議開催 被害対応確認 ・災害ゴミ～緑ヶ丘集積所は、ぬかって対応不可の状況 →スポーツセンター駐車場に開設し、一本化を決定(9/11～) 19時00分 災害対策本部会議開催 ニサナイ断水2戸、解消の見込み 22時00分 苫小牧市からの人材支援2名追加 →避難所対応(町民センター、穂別中学校)

9月	11日	1時20分 鵠川地区と穂別地区で停電が発生 停電発生～支所庁舎は非常用発電機稼働 ※送電に問題があるとのこと。（移動発電機車対応職員に確認） 停電により情報端末使用不可により、無線を再配置。 →各避難所に広報班で配布 災害情報等テレビ11chで配信開始（テレビ視聴不能期間9/6～9/9の18時00分まで） 4時58分 余震（最大震度4、M4.5 穂別震度3） 5時11分 支所庁舎付近停電回復 市街地の一部で水が出にくいとの連絡あり 5時20分 鵠川地区の役場（本庁）付近から停電が順次回復 稲里浄水場停電によりポンプが停止。 →ポンプの発電機を手動で対応（本来は自動切替） 6時10分 稲里停電回復（住民から電話連絡あり） 6時55分 北電より連絡。停電はほぼ回復。 ※停電の原因は地球体験館周辺の高圧線が原因とのこと。 9時44分 一般家庭停電7戸回復 10時00分 愛誠会から旧富内小学校等教職員住宅の活用について相談あり ※グループホーム樹海など建物の損傷が大きく、利用が困難な状況 →理事者、本部と協議し、使用を決定（9/12）～4棟 使用させるにあたり、教育財産から普通財産に変更 （当面、期間3ヶ月とし、状況により延長も可とした） ピザラ来町（10：00～18：00）支所前 ※被災者支援 14時17分 災害ボランティアセンターの受入を開始 15時00分 北電から早くも明日、遅くとも明後日に送電線から電気を供給できる旨の連絡あり。 19時00分 災害対策本部会議開催 緊急災害情報をホームページに掲載 義援金・指定寄付受入れ開始
	12日	4時39分 余震（最大震度2、M3.4 穂別震度1） 7時30分 放課後子どもセンター 開設時間7：30～18：30とする。 8時30分 さくら認定こども園の開園時間8：30～16：30とする。 9時00分 罹災証明受付開始（町民G窓口） 11時10分 段ボールベッド搬入完了（100個） ※追加100個発注 14時00分 段ボールベッド設置 ※道庁からの応援職員等の協力 15時49分 北海道総合通信局 衛星電話5台持参 16時00分 水道完全復旧（断水解消）最後の2戸も通水完了 17時00分 【避難勧告解除】栄地区 18時24分 余震（最大震度4、M4.3 穂別震度3） 19時00分 避難勧告エリア住民への説明会実施～町民センター避難所内（明穂、共和、キウス） 災害対策本部会議開催（被害対応確認） 20時08分 余震（最大震度2、M3.2 穂別震度1）
	13日	1時37分 余震（最大震度3、M4.2 穂別震度2） 5時12分 余震（最大震度2、M3.5 穂別震度2） 6時15分 福祉避難所を閉鎖 9時00分 地区本部員会議開催 13時00分 安住地区貯水場へ給水（消防署穂別支署で対応） 15時00分 緑ヶ丘給水所閉鎖 15時06分 余震（最大震度3、M3.9 穂別震度1） 穂別中学校避難所を町民センター避難所に統合し、避難所閉鎖 ※中学校の避難所から自宅に戻った町民については、保健師が家庭訪問を実施。 17時00分 町民センターより救急搬送（高齢避難者～爪が剥離し、出血） 19時00分 災害対策本部会議開催
	14日	家屋調査を開始 6時54分 余震（震度4、M4.6 穂別震度4） 穂別ダム震度3 7時00分 情報収集班出動（町内巡回） 8時00分 情報収集班帰庁→ダム、水道等異常なし 8時30分 情報収集班出動 二次調査 9時05分 臨時課長等会議開催～職員体制等協議 9時11分 市街地に電線のたるみ確認 ※佐々木電気（株）に連絡、対応を依頼 9時40分 地区本部員会議開催（被害対応確認等） ・仁和及び中央生活館（和泉）の避難所の統合協議→町民センターに被災者を集約 ・夕方に対象避難所で避難者に説明会を実施

9月	14日	9時48分	余震（最大震度3、M4.3 穂別震度2）
		11時30分	災害救助法説明会（職員向け～説明者：内閣府及び北海道職員） ・支所地域振興課企画管理G及び町民G職員出席
		12時00分	電源切替のため、約1時間停電 ※移動発電機車から送電線へ切替
		13時30分	生活支援物資（避難所対応用洗濯機）に係る打ち合わせ ※経済産業省職員来庁～町民センター裏口に設置
		15時00分	仁和及び中央生活館（和泉）避難所 →各避難所の避難者0人 ※両地区の自治会長に連絡協議し、閉鎖の了承得る。
		16時00分	地区対策会議開催 ※被害対応等確認
		16時30分	災害対策本部会議開催
		17時00分	NHKハートフルテレビ 富内避難所取材
	15日	8時00分	地球体験館立ち入り禁止措置 ・建物調査の結果、屋内の状況が危険と判断
		8時30分	臨時課長等会議（罹災証明関係） 地区本部員会議開催 穂別キャンプ場オープン
		10時20分	阿部北海道副知事及び胆振総合振興局長来町 →視察：町道隆農線、中島線 意見交換
		12時00分	マッサージボランティア（日本赤十字）と打ち合わせ →リラクゼーションルーム設置（9/17～）
		13時00分	北海道開発局 危険区域確認調査
		13時05分	ボランティア保健師帰任（9/7から来町）
		14時25分	宮城県応援職員罹災調査のための現地状況確認に来町
		14時53分	自衛隊第7師団後方支援隊長来庁
		15時00分	仁和及び中央生活館（和泉）避難所閉鎖
		16時00分	地区本部員会議開催
		16時30分	災害対策本部会議開催
		19時00分	震災状況説明会開催（町民センター） →対象：町民センター避難所避難者 対応：総括部、避難対策部
		19時38分	余震（最大震度2、M3.9 穂別震度1）
	16日	8時40分	穂別駐在所より、本日夜間よりキウス避難勧告地区の夜間パトロールを実施する旨 連絡あり
		9時00分	片側通行解除 →西2条通り線、中島線 通行止め解除 →栄豊田線
		11時28分	日本赤十字社による各避難所巡回
		11時30分	自衛隊マッサージボランティア実施
		12時15分	日本赤十字北海道支社来庁 →リラクゼーションルーム開設に係る下見及び打ち合わせ
		13時17分	宮城県応援職員来庁 →罹災証明発行特設コーナー設置場所確認 ※コミュニティAに設置することを検討
		13時30分	日赤リラクゼーションルーム開設準備（～16：00まで） →支所2階に設置
		14時30分	ほべつの湯ボイラー故障（9/16～18まで休業） →当面、入浴サービスは「はくあの湯」で対応
		15時10分	図書館ボランティアのテレビ取材の連絡あり ・9月17日10：00から取材予定
		15時30分	富山県砺波市長来庁
		16時00分	地区本部員会議開催 ・朝食の炊き出し対応について、学校再開に伴い提供時間の変更協議 （現状8：00 →7：00or7：30へ） ・罹災証明発行ブースの設置と準備検討（9/25から開設）
		16時30分	災害対策本部会議開催
		16時45分	【避難勧告解除】 キウス地区
		20時25分	地区本部員会議 ・今後の対応について協議調整
	17日	2時51分	余震（最大震度4 M4.7 穂別震度3）
		9時00分	地区本部員会議開催
		10時10分	日本赤十字社による避難所巡回（最終日）
		10時33分	北海道薬剤師会 避難所に置き薬、嘔吐消毒キット配置
		10時35分	ゴミ集積所 シート養生作業、重し用土嚢作成 ※台風等対策（ゴミの飛散防止対応）

9月	17日	11時00分	「心のケア」コーナー設置 ※赤十字社対応 ・リラクゼーションルーム開設（支所2階）※スタッフ対象
		11時30分	苫小牧保健所巡回 来庁
		11時50分	宮城県警町内巡回
		13時00分	町民センター給水所閉鎖
		13時30分	KBC福岡放送、NHK被害状況取材に来庁
		15時00分	日本赤十字社リラクゼーションルーム閉所
		16時00分	地区本部員会議開催
		16時35分	災害対策本部会議
	18日	9時00分	地区本部員会議開催 一般ゴミ（可燃ゴミ）回収支援 ※山本浄化槽株式会社 →穂別スポーツセンター（午前中対応） 岩手県曹洞宗僧侶4名傾聴活動に来町 避難者とお茶会実施
		10時00分	罹災証明事務関係打ち合わせ
		11時30分	一般ゴミ（可燃ゴミ）回収支援 ※山本浄化槽株式会社 →ふれあい公園駐車場、緑ヶ丘集積所 ボランティア応援打ち合わせ
		14時00分	町内漏水関係の工事完了
		15時00分	映画上映打ち合わせ「生きとし生けるもの」
		16時00分	地区本部員会議開催 町民センター避難所避難者の健康確認（町保健師対応）
		16時30分	災害対策本部会議開催
	19日	9時00分	地区本部員会議開催 ・食事対応 →9/21から避難者中心へ移行 ※避難所開設から自宅調理困難者も含めて食事を提供 ・解体等のコンクリート廃材の仮置き場（一時集積）の検討 →穂別野球場奥に設定
		10時00分	罹災証明受付 ・発行会場準備 ・コミュニティAの整理及び会場設営作業
		10時20分	庁舎間無線復旧
		11時00分	自衛隊との打ち合わせ
		13時30分	町村農場（江別市）から牛乳の寄贈 ※社長持参1Lパック240本 →愛誠会、さくら認定こども園、子どもセンター、避難所
		16時00分	地区本部員会議開催
		16時30分	災害対策本部会議開催
			臨時災害FM局「むかわさいがいいエフエム」が開局
	20日	9時00分	地区本部員会議開催 ・富内銀河会館9/21で閉鎖を予定 →避難者：愛誠会グループホーム入居者のみ、21日で移動 ・災害対応職員の食事関係～自宅に対応可能な職員は各自対応 ・自衛隊9/21で任務完了（食事対応等） ※自衛隊から報告 →当面、役場女性職員等に対応 ※弁当対応も検討する。
		9時30分	災害対策本部会議開催 ・日本赤十字社 各避難所の救護は本日で終了
		11時00分	赤十字社リラクゼーションルーム設置（15時まで） ・職員等対象
		12時00分	黙祷
		15時00分	災害状況記録撮影（ドローン活用） 丹波市、篠山市協力 ・記録撮影後、職員にドローン操作指導
		16時00分	御船町職員来庁→義援金の配分等について、打ち合わせ資料持参 鹉川地区で自衛隊による給水支援が終了する
	21日	9時00分	地区本部員会議開催 ・生活物資等の支援要望を各自治会に照会（生活物資、仮設住宅等） ・被災者対応として、町内各住宅の状況確認を協議 →公営住宅、旧教職員住宅等の状況、仮設
		9時30分	災害対策本部会議開催
		10時20分	山本浄化槽株式会社で可燃ゴミ回収実施 →ふれあい公園、緑ヶ丘集積所対応
		14時00分	富内銀河会館避難所最後の5名移動
		16時00分	罹災証明書発行事務説明会及び生活再建支援申請受付研修 →本庁で開催。担当職員は本庁で受講。 ・終了後、仮設住宅住民向け説明会事前打ち合わせ

9月	21日	19時00分	富内銀河会館避難所閉鎖 映画上映会「生きとし生けるもの」 →町民センター1階ロビーで実施
	22日	9時00分	地区本部員会議開催 ・春日の沢、穂別神社付近応急処理（9/20～21）完了 ・ドローン操作説明会の実施（14：00～15：00）
		9時30分	災害対策本部会議開催
		9時45分	【避難勧告解除】明穂地区、共和地区 ・住民及び自治会長へ電話連絡 ※電話連絡がつかない住民には、文書のポスティング対応
		18時30分	ものまねライブ開催 ・町民センター1階ロビー
	23日	9時00分	地区本部員会議 ・各施設担当者→施設状況の確認（修繕箇所、写真、金額等）
		9時30分	災害対策本部会議開催
		10時30分	和泉地区で滑落事故が発生し、ドクターヘリで負傷者札幌へ搬送
		14時00分	御船町応援職員来庁 →生活再建支援申請に係る打ち合わせを実施
		16時00分	仮設住宅説明会開催に伴う会場設営準備
		18時30分	仮設住宅説明会開催～ 町民19名参加
	24日	9時00分	穂別地区対策会議開催
		9時30分	災害対策本部会議開催
		10時30分	応援職員（丹波市、篠山市）終了。帰庁
		15時00分	ボランティアセンターより協議 ・マッサージボランティアの受入 →9/26（水）13：00～17：00 町民センター2階
	25日	9時00分	穂別地区対策会議 罹災証明発行業務開始 →秋田県横手市職員、熊本県御船町職員協力 ※各ブース対応
		9時30分	災害対策本部会議開催
		9時45分	二宮地区避難指示解除
		11時00分	心のケア（～15：00） ※職員対象
		15時00分	住宅関係打ち合わせ（被災者の住宅確保、生活支援対応） →公営住宅入居希望者24件 ※住宅申込み3件（大規模半壊2件、半壊1件）
		16時30分	内閣府職員来庁（仮設住宅及び避難所関係）
			応急仮設住宅の建設を開始（大原地区） 「罹災証明」の発行を開始 「生活支援ハンドブック」の第1版を発行
	26日	9時00分	地区本部員会議開催
		9時30分	災害対策本部会議開催
		10時00分	生活再建説明会（安平町役場） 担当職員出席
		12時55分	鈴木章名誉教授応援色紙贈呈（町長及び教育長持参）
		13時00分	マッサージボランティア（マッサージ、あんま） ～16：00まで 道道平取厚真線通行止め解除
			家電ごみ受入れ終了
	27日	9時00分	地区本部員会議 ・避難者の状況から町民センター避難所の閉鎖を協議
		9時30分	災害対策本部会議開催
		10時00分	熊本県御船町長来庁
		14時00分	町長、支所長愛誠会訪問 KDDI（au）充電器回収に来庁 ※町民センター等設置分 グループホームの状況確認の為、道庁が10/3に来町する連絡有
		18時00分	町民センター避難所閉鎖 ・避難者帰宅に伴い0名
	28日	9時00分	地区本部員会議 ・台風24号の動き確認等
		16時30分	庁内課長等会議 ・今後の対応、課題等について協議

9月	29日	家屋調査を開始調査二次調査開始 9時00分 地区本部員会議 ・台風24号への対応協議 →災害ゴミの飛散防止対応 避難所の開設検討～町民センター、銀河会館、仁和会館の3カ所の開設（各避難所職員2名配置） ※自主避難所開設（9/30開設予定で調整）
	30日	9時00分 地区本部員会議 ・千歳市、恵庭市の応援職員台風により支援休止 ・災害ゴミの受入は、本日で終了 ・今後の体制協議 →罹災証明対応（受付、調査、発行業務の体制を調整） 生活再建相談対応（町民Gで対応） 被災家屋、仮設住宅等（建築Gで対応） 9時30分 穂別博物館再開 12時00分 第3非常配備から第1非常配備へ移行（地区対策本部解散） 14時30分 台風24号対応に係る避難所班5人登庁 15時00分 台風24号対応により、自主避難所3カ所開設 →町民センター、仁和会館、富内銀河会館 16時10分 町民センター1名自主避難 17時40分 町民センター2名自主避難 17時54分 余震（最大震度5 M5.0 穂別震度4） 17時58分 町内パトロール開始 ※富内・安住方面は、穂別消防支署に協力依頼 18時12分 穂別診療所異常なしの報告あり 19時00分 穂別ダム一次点検異常なしの報告あり 19時17分 富内パトロール班帰庁 →異常なしの報告 19時18分 稲里パトロール班帰庁 →異常なしの報告 19時35分 仁和パトロール班帰庁 →異常なしの報告 21時00分 富内及び仁和避難所 避難者0人のため、閉鎖 町民センター避難者8名
10月	1日	7時00分 町民センター自主避難者8名 →朝食後5名帰宅 7時30分 町内パトロール開始 →各地域の状況を確認→異常なし 8時40分 稲里パトロール班帰庁 8時43分 富内パトロール班帰庁 8時46分 仁和パトロール班帰庁 9時00分 支所管理職会議 ※台風24号対応に伴う第1非常配備により開催 ・台風24号及び前日の余震関係の被害状況等確認 ・中島地区で道路に地割れ発生 →業者に修理依頼 9時02分 市街地パトロール班帰庁、対策会議で状況報告 9時30分 災害対策本部会議開催 ・台風24号及び前日の余震関係の被害状況等確認 ・当本部会議をもって、第3非常配備から第1非常配備へ縮小 10時00分 町民センター避難所閉鎖 11時22分 震度3の余震発生 13時00分 穂別ダム2次点検 生活再建ハンドブック（第2版）発行
	2日	9時30分 穂別地区対策会議 ・無料入浴券による入浴支援→10月5日まで実施を協議 ・生活福祉資金の特例貸付（社協） →コミュニティB（11月8日まで） 9時30分 地区対策会議開催 10時00分 災害対策本部会議開催 ・今後の体制及び動き確認 ・本部会議を月曜日に開催 ・プロジェクトチームを今週中に立ち上げ ・10月3日公営住宅入居説明会開催（地域経済課対応） ・穂別地区第1非常配備を解除 →警戒配備とする。
	3日	鵠川漁港でししゃも漁が再開される 10時34分 停電発生（稲里、長和、キウス、計180戸） ※原因 →高圧電線断線、開閉器故障 15時30分 北海道保健福祉部長来町（鵠川地区） →町長と面談

10月	3日	16時30分	北海道保健福祉部長来町（穂別地区） →愛誠会、グループホーム視察
	5日	8時58分	震度5弱余震発生
		8時58分	余震（M5.2、穂別震度5弱、穂別ダム震度3） ※胆振地方中東部（北緯42度35.5分、東経141度57.9分）
		9時00分	町民センター避難所開設 ※情報端末で周知
		9時05分	日高自動車道 苫東中央IC～日高富川IC通行止め（13時解除）
		9時07分	情報収集班町内パトロール開始 4班体制
		9時08分	避難所開設に係る広報開始（～9時55分終了）
		9時12分	各公共施設、児童施設、愛誠会、前回避難勧告地域、被害なし
		9時30分	平取厚真線（道道59号）通行止め
		10時40分	十勝管内清水町の炊き出しチーム来町
	11時00分	町民センター避難所避難者0名により閉鎖 支所管理職会議開催 →台風25号の対応検討	
	12時00分	清水町炊き出しチームによる牛玉ステーキ丼の提供（16時30分まで）	
6日	8時30分	情報収集班集合 →台風25号に係る町内パトロール	
	10時00分	震災対応に伴う職員体制協議（課長対応）	
	12時00分	避難所班職員集合	
	12時30分	仁和避難所班出発	
	12時45分	富内銀河会館避難所班出発	
	13時00分	町民センター、仁和会館、富内銀河会館避難所開設	
	23時12分	余震（M3.2、穂別震度2）	
	23時12分	震度2余震発生	
	7日	サッカー北海道コンサドーレ札幌の選手が慰問に訪れる 北海道コンサドーレ札幌震災地交流 ・会場 穂別中学校 →参加者30人（選手7名来場）	
9日		9時30分	災害対策本部会議開催 復興推進プロジェクトチーム立ち上げ
		12日	鵠川地区で自衛隊による給食支援が終了する
15日		9時30分	災害対策本部会議開催 公費解体の受付を開始（9月6日～10月14日までに解体したものは先行解体で受付） 段ボールベッド100個搬入開始、追加100個発注
		22日	9時30分
9時30分			災害ゴミ～事後搬出 →スポーツセンター周辺の対応（今週実施）
23日		むかわ町長杯「復興支援感謝特別」ホッカイドウ競馬 北海道オリンピックズ被災地訪問 鵠川中央小学校	
		29日	9時30分
30日			むかわ町議会被災箇所視察 北海道競馬「むかわ町長杯ししゃも特別レース」が「復興支援感謝特別レース」として 門別競馬場で開催
	31日	応急仮設住宅1期工事完了（大原仮設団地25戸）	
11月	1日	応急仮設住宅の入居開始（大原仮設団地25戸）	
	3日	「むかわししゃもまつり」が震災復興イベントとして3日、4日に鵠川中央小学校グラウンドで開催	
	4日	札幌交響楽団避難所ミニコンサート	
	11日	「四季の館」避難所を閉鎖 復興イベントとして11日、17日、18日「むかわ竜完全版大公開」が行われる	
	12日	家屋調査三次調査開始	

11月	15日	応急仮設住宅の2期工事建設開始
	20日	鶴川高等学校の生徒約100人が商店街を勇気づける「ウォールイベント」を実施
	23日	復興支援イベントとして「ポケモンたちと遊ぼう」が行われる 復興支援イベント「ポケモンたちと遊ぼう」10:00～12:00 ・主催 POKEEMON with YOU (株式会社ポケモン) ・穂別町民センター多目的ホール →来場者176名(内、子ども84名) むかわ町プレーパーク ・主催 NPO法人いぶり自然学校 ①むかわ木育の学校～11月23日、24日 10:00～15:00
	26日	家屋調査四次調査開始
	29日	応急仮設住宅の3期工事建設開始(美幸仮設住宅6戸) 応急仮設住宅(鶴川高等学校生徒寮)の建設開始(36人)
12月	1日	日本ハムファイターズ栗山監督野球少年団慰問
	3日	被災住宅応急修理補助金申請開始 職員アンケート実施 生活再建ハンドブック(第三版発行)
	5日	応急仮設住宅2期工事完成(美幸仮設住宅4戸) くまもん訪問 ひかり認定こども園・慶寿苑 罹災証明の申請受付が終了
	8日	小野友葵子ミニコンサート
	9日	レバング北海道観戦ツアー
	11日	サザエさん上映会
	15日	被災者に友綱部屋が復興支援のためちゃんこ鍋を振る舞う
	17日	むかわ商工会が復興支援のため「商工会プレミアム商品券」の販売を開始 北海道日本ハムファイターズが復興支援のため野球教室を開催
	23日	音楽で暖まろうクリスマスコンサート
	25日	応急仮設住宅3期工事完成(美幸仮設住宅6戸)
	27日	美幸仮設住宅(6戸)入居開始 復興推進プロジェクトチーム事務を統括する「復興推進本部」を設置
月	日	主な出来事・町の対応 (平成31年)
1月	11日	エスポラーダサッカー教室
	19日	江差追分札幌コンサート招待事業
	20日	苫小牧ニューイヤーコンサート招待 復興応援セミナー「地域資源活用セミナー」
	31日	応急仮設住宅としての鶴川高等学校生徒寮(三気塾)が完成
2月	1日	罹災証明の第2次受付開始、被災住宅応急修理補助金受付延長
	2日	北海道胆振東部地震復興応援事業として小学生に「第70回さっぽろ雪まつり招待」 北海道胆振東部地震復興応援事業 第70回さっぽろ雪まつり招待 ・対象 小学生 →穂別地区参加者15名 苫小牧スケート祭りバスツアー
	11日	胆振東部地震巡回ミニコンサート
	13日	復興支援セミナー「マチナカおもてなしガイド育成研修」
	16日	復興イベント「恐竜化石を活かしたまちづくり講演会」

2月	21日	夜間に震度5強の余震発生 →穂別町民センターに避難所開設（避難者なし）
	24日	バリアフリーおもちゃ博
3月	2日	復興支援ピアノコンサート開催 「ウォン・ウインツァン」ピアノコンサート ・主催 胆振東部地震復興応援コンサート実行委員会 ・会場 穂別町民センター多目的ホール →来場者約100名
	3日	チャリティイベント「ひなまつりカフェ」
	6日	復興基本方針の決定 町長による仮設住宅訪問
	17日	全戸訪問活動（在宅支援訪問プロジェクト）を開始
	23日	むかわ復興ライブ
	31日	被災住宅応急修理補助金申請・罹災証明受付終了
4月	3日	穂別図書館再開
	12日	「むかわ町復興支援ネットワーク」立ち上げ
	19日	ハーゲンダッツ&ユニー共同社会貢献活動「おもちゃプレゼント」
	23日	ウルトラマンヒーローショー ひかり認定こども園、さくら認定こども園
	24日	劇団風の子公演 ひかり認定こども園（胆振東部地震プレゼント公演） 出席者 120名
	25日	劇団風の子公演 さくら認定こども園（胆振東部地震プレゼント公演） 政策企画会議 復興計画（素案決定） 北海道胆振東部地震における災害対応検証会 17：00～18：30 会 場 穂別町民センター ツツジホール 出席者 各自治会長（10自治会出席） 関係機関（穂別消防団、消防署穂別支署、穂別駐在所） 役場関係、町長以下関係職員17名
4月	30日	平成ありがとう!ゴールデンウィークミニコンサート 会場 四季の館憩いの広場 出席者 70名 罹災証明二次調査受付終了
月	日	主な出来事・町の対応 (令和元年)
5月	5日	むかわ応援ライブ～音楽と絵本で元気を届けたい～ 会場 四季の館憩いの広場 出席者 70名
	10日	仮設住宅等町長懇談会（鶴川地区）大原仮設住宅
	14日	奥野ひかる復興支援ライブ
	15日	仮設住宅等町長懇談会（鶴川地区）美幸仮設住宅
	24日	仮設住宅食器青空市
	27日	庁内各課との職員ミーティング（まちづくり計画、推進計画、復興計画について） ※～6月12日まで
	28日	歌手の南こうせつが復興支援イベントとして「ミニライブ」を行う 会場 四季の館研修室 出席者 200名
	30日	鶴川・沙流川D MO（観光地域づくり法人）による復興支援トートバッグ販売による 寄付金の贈呈式を実施
	31日	義援金請求の受付を終了
6月	3日	オリンピック出場経験者4名が復興支援として来町。子どもたちと交流する 会場 穂別小学校 出席者 100名
	9日	復興支援出前レクリエーション（七飯レクリエーション協会）
	11日	友綱部屋復興支援合宿 公開稽古 会場 四季の館他

6月	23日	復興支援コンサート「どさんこSOULに火を点ける！らららダイヤモンド」 会場 鶴川中央小学校 出席者 1,000名
	28日	政策企画会議 復興計画（原案）決定
7月	4日	パブリックコメントの実施・団体意見照会 ※7月18日まで
	7日	にじいろキャラバン隊「七夕まつり」
	16日	Wilsonバドミントン講習会、試打会
	26日	仮設住宅等居住者に対する復興計画（原案）に係る説明会（鶴川地区）
	29日	・むかわ町復興計画（原案）に係る説明会 ①仁和地区 穂別消防団第3分団詰所 17：30～18：30 ②穂別市街地等 穂別町民センター会議室 19：00～20：00
	31日	「むかわ町復興計画」公表
8月	31日	復興支援イベント「YOSAKOIイベント演舞会」開催 11：00～11：50 ・会場 穂別博物館駐車場 ・出演 5チーム ・観覧 約150名
9月	1日	北海道日本ハムファイターズ野球教室 会場 田浦野球場 出席者 60名
	6日	発災から1年に合わせ「むかわ町防災訓練」を行う。382名が参加。
	7日	ラポールウインドアンサンブルファミリーコンサート 会場 四季の館たんぼぼホール 出席者 60名
	10日	あすなろコンサート 会場 宮戸小学校 出席者 30名
	15日	シネマバード in 北海道 会場 四季の館たんぼぼホール 出席者 800名
	18日	奥野ひかる歌謡ショー 会場 四季の館研修室 出席者 30名
	20日	JA穀物乾燥調製施設工事安全祈願祭
10月	16日	道内出身若手落語会 会場 四季の館たんぼぼホール 出席者 100名
	20日	つちだきくお復興応援ライブ 会場 四季の館研修室 出席者 80名
	21日	北海道胆振東部地震からの復旧・復興シンポジウム
	28日	まちなか活性化を考える職員研修会
11月	18日	北海道胆振東部地震からの復旧・地域復興シンポジウム
	19日	全日本プロレス～北海道胆振東部地震チャリティー大会へ 会場 四季の館たんぼぼホール 出席者 250名
12月	24日	災害公営住宅災害査定
	26日	北見工業大学地域と歩む防災研究センター包括連携協定式
月	日	主な出来事・町の対応 (令和2年)
2月	1日	農民オーケストラ定期演奏会 会場 四季の館たんぼぼホール 出席者 415名
	15日	穂別地区防災研修会開催、約90名が参加 ・むかわ町穂別地区防災研修会 ①講演「むかわ町穂別地区で想定される災害とその備え」 講師 室蘭地方気象台 予報官 佐藤 多佳夫 氏 ②演習 避難所運営ゲーム（HUG）穂別版の実施 ※参加者 各自治会、自主防災組織、消防団、役場職員等 約90名 ※会場 穂別町民センター多目的ホール

4月	1日	社会福祉法人愛誠会と「災害における福祉避難所の開設等に関する協定」を締結 一般社団法人ライフケアぽっぷ、特定非営利活動法人宅老所日和、社会福祉法人鶴川慶寿会、医療法人社団誠医会と「災害における福祉避難所の運営協力等に関する協定」を締結
	9日	株式会社セコマと「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結
8月	28日	いすゞ自動車株式会社、株式会社いすゞ北海道試験場と「災害時における避難所等の施設利用等に関する協定」を締結
9月	15日	独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校と「包括連携協定」を締結
	25日	北海道日産自動車株式会社、札幌日産自動車株式会社、日産プリンス札幌販売株式会社、日産自動車株式会社北日本リージョナルオフィス北海道グループと「電気自動車等を活用した災害連携協定」（むかわ町、安平町、厚真町3者合同）を締結
	28日	ヤマト運輸株式会社と「包括連携協定」を締結
月	日	主な出来事・町の対応 (令和3年)
1月	14日	鶴川仏教会（永安寺、願照寺、光生寺、静光寺、法城寺、龍照寺）と「災害時における施設利用に関する協定」を締結
	28日	天理教胆振分教会と「災害時における施設利用に関する協定」を締結
2月	24日	真光寺、梅溪寺、本念寺（穂別地区）と「災害時における施設利用に関する協定」を締結
	26日	一般社団法人日本ムービングハウス協会と「包括連携協定」を締結 一般社団法人日本ムービングハウス協会と「災害時における応急仮設住宅（移動式木造住宅）の建設に関する協定」を締結
3月	18日	社会福祉法人むかわ町社会福祉協議会と「災害時におけるボランティアセンターの設置及び運営等に関する協定」を締結